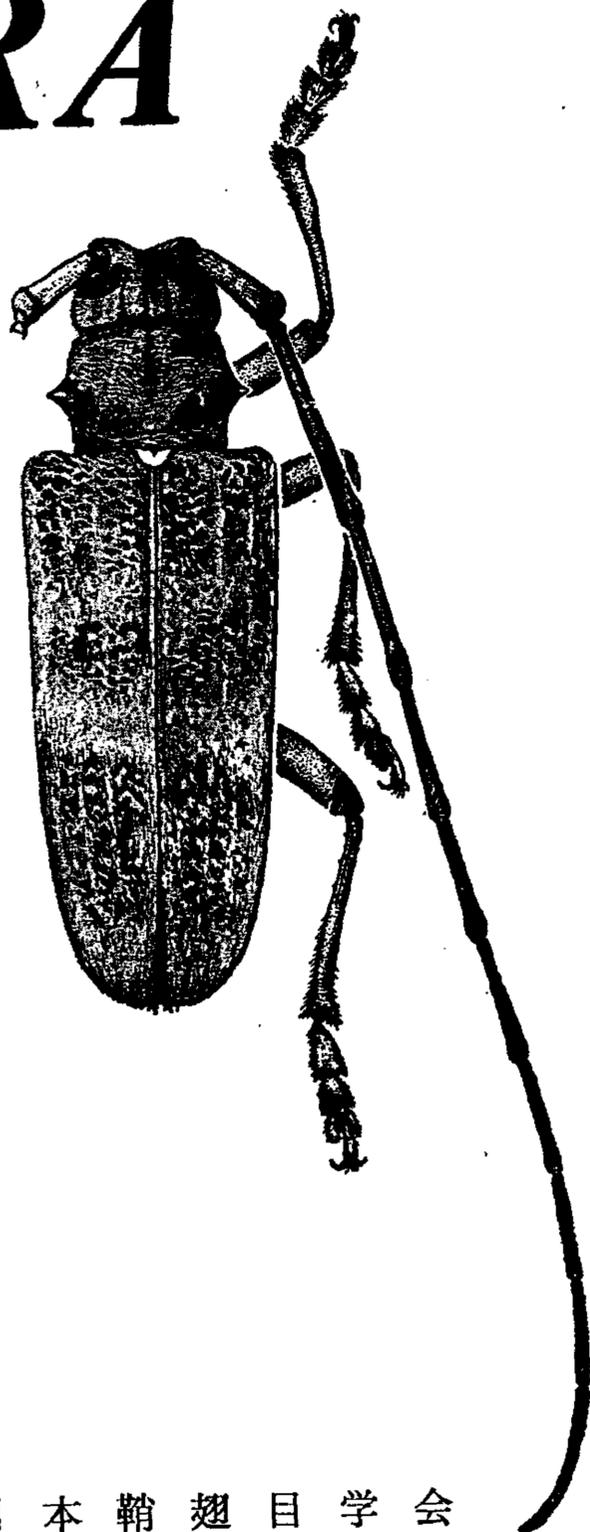


# *ELYTRA*

The Journal of  
Japanese Society of Coleopterology



Vol. 3 Nos. 1/2

(May, 1976)

日本鞘翅目学会

## 投稿規定

1. 日本鞘翅目学会々員は会誌 ELYTRA に投稿できる。
2. 投稿内容は甲虫に関連したものに限る。
3. 投稿の掲載可否および掲載時期については編集局の合議による。
4. 原稿分量は、原則として1号1篇あたり刷上がり16頁までとし、それ以上のものは2回以上に分ける。
5. 和文の原稿は横書き、原則として現代かなづかいを用いる。
6. 原著に関しては欧文表題を付すこと。
7. 欧文の原稿には和文表題を付すこと。
8. 原著には Summary (要約) を付すことが望ましい。
9. ELYTRA に掲載される原著論文は、本会の審査委員会による審査を受け、受理されたものでなければならない。
10. 印刷代著者負担の原稿は、上記審査委員会で受理されれば、指定の号に掲載することができ、また、ページ数の制限をうけない。  
(主に和文の原稿：1ページにつき ¥ 5,500, 主に英文の原稿：1ページにつき ¥ 7,500)
11. 和文の原稿では、種名は和名を主とし、学名は必要最小限にとどめる。
12. 新種および日本未記録種の記載については、必ず標本写真(原記載の場合は holotype に限る)あるいは写真に代わりうる図を付し、それらから種の特徴が判別不可能な場合には、別に図版でもってこれを補うことが望ましい。
13. 動植物の学名は、*Necydalis major* LINNÉ のように命名者は全記すること。ただし、同文中で重複する場合は省略してかまわない。
14. 文献は本文の終わりに一括して記すことが望ましい。雑誌名および巻号は省略体でよい。  
(例) Ent. Rev. Japan 19, p.5~34, 1967
15. 活字の指定および校正は編集局に一任されたい。ただし、原著に関しては、初校は著者校正とする。
16. 別刷は原著に限って作成(50部以上)し、50部までは実費の半額を当会が負担、それ以上は著者の全額負担とする。(送料著者負担)
17. 掲載済の原稿は返却しない。ただし、原図・写真は希望があれば返却する。
18. 原稿の送付先は、当分の間、下記宛とする。  
〒110 東京都台東区台東2-29-6 藤田 宏方, 日本鞘翅目学会編集局

### 【投稿に関する注意事項】

- a. 和文は「～である」調を用いる。ただし、会話はこれに当てはまらない。
- b. 欧文原稿は1行60字内外にタイプする。
- c. 未記録種の投稿に際しては、それが未記録であると考えた理由を明記することが望ましい。
- d. 分類の紛らわしい種の記録を行なう場合は標本写真を付すことが望ましい。なお、本会誌に用いるための標本写真撮影は当会にても行なうので、希望者は事務局宛に連絡されたい。(1号につき4点までは無料、それ以上は実費を請求する。)
- e. 写真および図版は出来上り予定寸法の1.5倍程度に製作するとよい。
- f. 採集データ(和文)は次のように略記すればよい。  
5♂♂1♀, 群馬県武尊山, 16.VI.1970, 衣笠恵士採集
- g. 原稿は編集局により一部変更されることがあるが、変更箇所が内容及ぶ場合はあらかじめ著者の了解を求める。また、不備な原稿は書き直しを要求することもある。
- h. 原著論文の著者校正において、校正中の追加・変更は一切認めないので、完全原稿を旨とすること。

# 台湾産食糞コガネムシ解説〔1〕

益本仁雄

A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa〔1〕

By Kimio MASUMOTO

(Received Sept. 25, 1975; Accepted Oct. 30, 1975)

台湾の面積は九州にほぼ等しいが昆虫相は日本全土のその数倍といわれるほど複雑で、甲虫類とりわけ食糞コガネムシについても例外ではない。

筆者は1971年以来9回にわたりこの地を訪れ、主として食糞コガネムシの調査を行なった。また、1975年8月には中村慎吾氏のご紹介で台湾省農業試験所（旧台北大学）の標本を検査する機会をもつことができた。

この報文は調査を通じて得られた事実と、従来台湾から記録されている種の再検討を中心に解説を試みたものである。

本文をまとめるにあたり、野村鎮氏、中根猛彦博士には種々のご教示を賜わった。また、三宅義一、石田正明、酒井香、横山創、秋山黄洋、露木繁雄の諸氏から資料等のご提供をいただいた。さらに中村慎吾、朱耀沂、邱瑞珍、陳維寿、林茂成、杜欽龍、杜欽明、今枝真弓、張秀香、黃綱各位のご協力があった。これらの諸氏に対し深甚なる謝意を表したい。

〔注〕1) 和名に\*印が付いているものは新称、または改称。

2) 解説中、三輪の記録として地名があげられているものは1931年発表のカタログからの引用。

3) 戦前の記録の中には、分布に疑問がもたれるものが少なくない。それはある理由で他地域の標本が混入したためである。ひとたび記録に載ると、分布していないという立証はきわめてむずかしくなる。そこで筆者は未確認種について学名の頭に×印を付けることとした。

Species marked\* are found in record from Formosa but the author was not able to confirm their inhabitation. Parts of pre-War records are unreliable.

Present address: 890-30, Kamigochō, Totsuka-ku, Yokohama city, Kanagawa Pref. (〒247)

## I 台湾産食糞コガネムシ類の解説

### Trogidae コブスジコガネ科

野村(1974)によると従来 *T. (Omorgus) obscurus* と記録されていたものは *T. (O.) chinensis* であり、*T. (O.) chinensis* とされていたものは *T. (O.) pauliani* であるという。したがって三輪・中条(1939)および加藤(1933)のカタログや図鑑はそれぞれ読み替えの必要がある。また、野村は1973年に *T. (s. str.) formosanus* を発表している。この他、加藤はコガタコブスジコガネなるものを図示しているが、台湾産か否かの疑問があり、また、真の *Trox* でないかもしれない。

#### *Trox (Omorgus) pauliani* HAAF

オオコブスジコガネ\*

14mmにも達する大型コブスジコガネである。(写真1) 墾丁で得られている。三輪は *T. (O.) chinensis* として卑南、恒春、澎湖等を記録している。

#### *T. (O.) chinensis* BOH. オオコブスジコガネ

墾丁で採集、三輪は *T. (O.) obscurus* として埔里を記録している。(写真2)

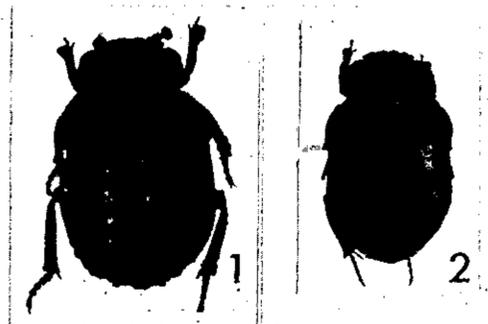


写真1 *Trox (Omorgus) pauliani* HAAF

写真2 *T. (O.) chinensis* BOH.

*T. (s. str.) formosanus* NOM.

タカサゴコブスジコガネ\*

本種は、*T. (s. str.) opacotuberculatus* に似るが、上翅の瘤起は非常にこまかい淡褐色の剛毛を装い、点列列は両側に顆粒を具えないなどの点で区別できるといふ。霧社から記録された。

*T. (s. str.) opacotuberculatus* MOTS.

ヒメコブスジコガネ

奮起湖で採集されている他、三輪は阿里山、埔里などを記録している。

\**T. (s. str.) scaber* (L.) チビコブスジコガネ  
三輪は六亀、Hokko を記録しているが未確認。

### Geotrupidae センチコガネ科

戦前の記録の中には分布に疑問を持たれるものが少なくない。(前ページ脚注参照)なお、戦後この地から数種の新種が発表されている。

#### 1. Bolbocerini

野村が1973年に1新種を発表しているが、それ以外の種の最近の記録を見ない。

*Bolbocerosoma kiyoyamai* NOM.

キヨヤマセンチコガネ\*

奮起湖から得られたもので体長15.5mm、上面がまったく黒色のセンチコガネである。

以下に述べる各種は三輪が記録し、一部は加藤の図鑑にも示されているが、分布が確認できなかったもので、中には台湾産でないと思われるものも含まれている。

\**Bolbocerosoma nigroplagiatum* (WATERH.)

ムネアカセンチコガネ

記録：台北 (三輪)

\**Bolbelasemus coreanus* (KOL.)

トビイロセンチコガネ

記録：甲仙埔、埔里(三輪) (図一加藤)

\**Bolboceras calanus* WEST.

オオクリイロセンチコガネ

記録：基隆 (三輪) (図一加藤)

\**Bolboceras quadridens* (F.)

トゲムネセンチコガネ

記録：六亀 (三輪) (図一加藤) 農業試験所所蔵標本には素木のラベルがつけられていた。

*Bolbotypes davidi* FRM. エグリセンチコガネ

記録：南投、鳳凰山 (三輪)、5月三輪のラベルであ

った。(同試験所)

#### 2. Geotrupini

3種の分布が確認されている。加藤は *Enoplotrupes* に属する1種を (*Geotrupes* として) 図示しているが、この種の分布は疑わしい。

*Geotrupes (Phelotrupes) substriatellus* FRM.

クロセンチコガネ

おもに山地に見られる。黒色で光沢がなく上翅の条溝が痕跡的である点で他と区別される。♂の前胸背前縁部は単純、♀では中央がわずかに突出し浅い溝を有する。奮起湖、梅峰、南山溪などで得られているほか、三輪は阿里山、花蓮港、Nôkô, を記録。(写真3)



写真3 *G. (P.) substriatellus* FRM. a-♂ b-♀

*G. (P.) formosanus* MIWA タイワンセンチコガネ  
日本で得られる *G. (P.) laevistriatus* の亜種として

記載されたが、これとは体幅があり前胸背前縁中央がわずかに突出し、浅い溝を有することで区別がつく。また、前種とは上面に光沢があり、上翅溝が明瞭な点で判別は容易。奮起湖、南山溪上流など山地で得られる。三輪は阿里山、埔里などを記録。(写真4)



写真4 *G. (P.) formosanus* MIWA (♀)

*G. (P.) insulana* HOWDEN

タカサゴセンチコガネ\*

前種に似るが前胸背前縁中央附近に明らかなV字型の溝を具える。奮起湖などで採集されている。

\**Enoplotrupes (s. str.) sharpi* JORD. et ROTHSC.  
ツノセンチコガネ

加藤は本種を *Geotrupes sharpi* FRM. としている。

### Hybosoridae アツバコガネ科

本邦と共通種を加え野村は別属1種を発表している。また加藤は *Orphnus impress* WEST. なるものを図で示しているが分布は疑わしく、野村氏によると万一、分布しているとすれば、*O. cribratellus* FRM. であろうといわれる。

*Phaeochrous emarginatus* CAST.

フチトリアツバコガネ

各地にきわめて普通に見られ、腐肉を好み燈火に飛来する。三輪らも記録。

*Phaeochroops taiwanus* NOM.

タイワンアツバコガネ\*

前胸背が小さく上翅は前方に向かい狭まっており、上翅にやや長毛をまばらに装っているのが容易に区別がつく。奮起湖で得られている。

### Scarabaeidae コガネムシ科

#### Ochodaeinae アカマダラセンチコガネ亜科

この亜科の記録はいずれも *Ochodaeus* に属する。加藤が *Ochodaeus* sp. ヒメアカマダラセンチコガネとして図示しているものは台湾産か否か明らかでなくまた、別属の可能性もある。

黒沢(1968)に従い台湾産の *Ochodaeus* を分けるとおよそ次のようになる。

#### 台湾産 *Ochodaeus* の検索

- 1(2) 短頭(長さ:幅=1:1.35), 頭楯は両眼間でわずかにのみ突出。 *asahinai* Y. KUR.
- 2(1) 頭部はほぼ長幅同等またはわずかに長い, 頭楯は突出する。 .
- 3(6) 前胸背は褐~黄色がかり, 大小の基部に達する紋があり, 時に両側に小紋を具える。
- 4(5) 体色は暗赤褐色(暗い赤みがかった褐色), 前胸背板面の紋はより大きいに変化ある。頭楯は強く突出。後頭は広くえぐられる。 *formosanus* Y. KUR.
- 5(4) 体色はより明るく黄土色~黄褐色; 前胸背板面の紋はより小さく, 頭楯はそれほど突出せず, また後頭はえぐられない。 *xanthomelas* (WIED.)
- 6(3) 前胸背板板面は黒色, 両側にははば広く淡黄土色に縁どられその中央に小点紋あり。前頭は両眼前縁間の横隆起により頭頂および後頭と界される。そしてその隆起は中央で広く中断される。 *maculatus interruptus* Y. KUR.

*Ochodaeus asahinai* Y. KUR.

アサヒアカマダラセンチコガネ

体長約9 mm, 暗褐色でやや長い褐色毛を装う種であ

る。石垣島から発表されたが、後に墾丁からも記録された。(図1-1) 農業試験所標本中にも見出された。

*Ochodaeus xanthomelas* (WIED.)

タイワンアカマダラセンチコガネ

加藤は上記和名で *Ochodaeus* sp. として本種を図示している。なお本種は墾丁のほか、埔里附近、新竹、Piywai 等の記録がある。(写真5, 図1-2)



写真5 *Ochodaeus xanthomelas* (WIED.)

*Ochodaeus maculatus interruptus* Y. KUR.

アカマダラセンチコガネ(先島・台湾亜種)

黒沢は石垣島, 台湾から本亜種を書いている。また三輪が *O. maculatus* として, 甲仙埔, 阿里山, 恒春, 台東, その他を記録している。(図1-3)

*Ochodaeus formosanus* Y. KUR.

タカサゴアカマダラセンチコガネ\*

体長8~9 mmで褐色をし灰褐色毛を装う種である。黒沢は烏来, 眉原をあげている。(図1-4)

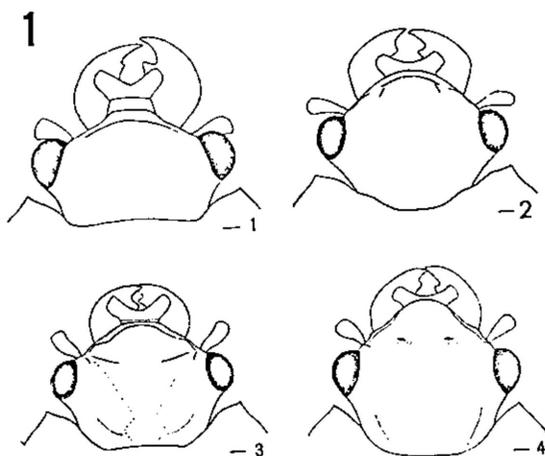


図1 台湾産 *Ochodaeus* の頭部(黒沢, 1968より)

- 1-1. *Ochodaeus asahinai* Y. KUR.
- 1-2. *O. xanthomelas* (WIED.)
- 1-3. *O. maculatus interruptus* Y. KUR.
- 1-4. *O. formosanus* Y. KUR.

#### Scarabaeinae タマオシコガネ亜科

本亜科には多数の種が含まれ通常いくつかの族に分けられている。また, 学者によっては本亜科を科に, 族を亜科に昇格させるなど区分の変更を試みているが, ここでは従来から日本で多く採用されている ARROW(1931)

の区分に従っておく。

台湾産 Scarabaeinae の検索

- 1(2) 中基節は広くは離れない。中脛節には1端刺を有する。  
*Scarabaeini*
- 2(1) 中基節は広く離れている。中脛節には2端刺を具える。  
 3(6) 後附節の基節は第2節よりかなり長い。  
 4(5) 後肢はきわめて長く附節は糸状。 *Sisyphini*  
 5(4) 後肢は極端に長くはない。附節は多少なりとも平らで次第に細くなる。 *Coprini*  
 6(3) 後附節基節は第2節に比しそれほど長くない。 *Panelini*

1. Scarabaeini

台湾から2属の記録があるが、*Scarabeus* の分布は疑わしい。

台湾産 Scarabaeini の検索

- 1(2) 前附節を欠く。上翅肩部後方で切り取られない(体が露出しない)。 *Scarabeus* L.  
 2(1) 前附節を有する。上翅は肩部後方で切り取られる。 *Gymnopleurus* ILL.

1-1 *Scarabeus* タマオシコガネ属

\**Scarabeus* (*Kheper*) *erichsoni* HAR.

コウシュンタマオシコガネ

体長21~26 mm, 暗褐色で緑~銅色を帯び、前胸背が密に強く点刻されている種である。三輪のカタログ(1931)には載っていないが、三輪・中条のカタログ(1939)および加藤(1933)が図示している。加藤は『恒春地方に産するも稀』としている。また、農業試験所の標本中の教頭の *Scarabeus sacer* を見つけたがラベルは単に Formosa とあるだけで、多くの個体は大陸の地名が記されていた。おそらく Formosa はラベルの付けまちがいのと思われる。

1-2 *Gymnopleurus* ヒラタマオシコガネ属\*

野村(1973)は *Paragymnopleurus* 亜属の3種を記録している。三輪・中条(1939)はその内の2種と、疑問符付きで *G. (s. str.) gemmatus* を記録し、加藤はそれを図示しているが *gemmatus* の分布は疑わしい。

*Paragymnopleurus* 亜属の3種はいずれもよく似ており同定は容易でない。人糞を好み灯火に飛来する。

台湾産 *Gymnopleurus* (*Paragymnopleurus*) の検索

- 1(4) 中脛節には2端刺を具える。前胸背後角はたいてい、わずかに広がり突出するのみ。  
 2(3) 前胸背の両側はほとんど角ばらない。黒色で背面は絹状光沢があり、特に前胸背は上翅より滑らか。  
*melanarius* HAR.  
 3(2) 前胸背両側は発達し強く角ばる。黒色だが紫銅色を帯びることが多く、背面はほとんど光沢なし。  
*ambiguus* JANSS.

- 4(1) 中脛節は1端刺。前胸背後角は広がり角ばって突出する。やや小型で黒色。光沢なし。 *sinuatus* (OLIV.)

*Gymnopleurus* (*Paragymnopleurus*) *ambiguus*

JANSS. タイワンタマオシコガネ\*

台湾より記載された種である。やや大型で紫銅色を帯びている。加藤や平山の図鑑で *G. assamensis* としていたものは本種と考えられる。なお BALTHASAR は *G. assamensis* を *G. (P.) sinuatus* の亜種としている。霧社、南山溪などで採集されている。(写真6)

*G. (P.) melanarius* HAR. ツヤタマオシコガネ

墾丁や南山溪で採集されているほか、三輪は台東を記録している。(写真7)

*G. (P.) sinuatus* (OLIV.) クロタマオシコガネ

タマオン活動は主に午前中に多く見られた。台湾各地に広く分布し、蘭嶼や緑島からも得られている。(写真8) 三輪も各地から記録。

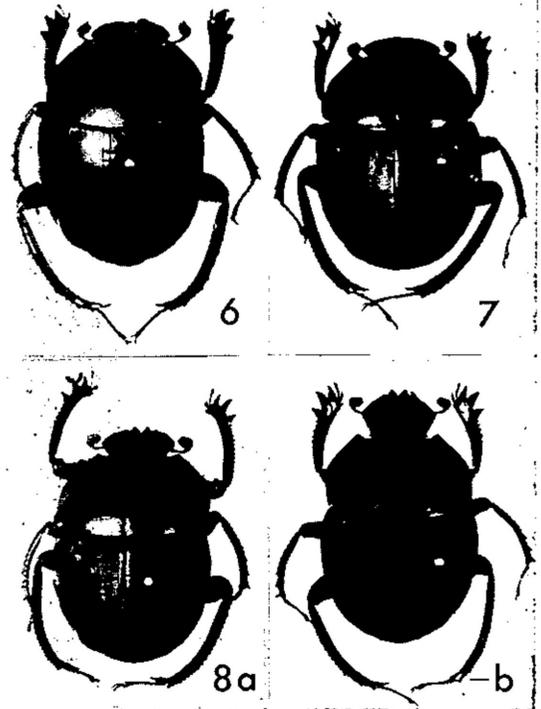


写真6 *G. (P.) ambiguus* JANSS.

写真7 *G. (P.) melanarius* HAR.

写真8 *G. (P.) sinuatus* (OLIV.) a-♂ b-♀

\**G. (s. str.) gemmatus* HAR. コブタマオシコガネ  
 三輪は *G. granulatus* として六龜から記録しているが実際に分布するか否かは不明。

2. Sisyphini

*Sisyphus* アシナガタマオシコガネ属

三輪・中条 (1939) は疑問符を付けながらも 4 種を記録し、加藤はそのうち 1 種を图示しているが分布は疑わしい。農業試験所では *S. bowringi* をのぞきすべて検することができたが、いずれも素木のラベルが付けられた標本である。

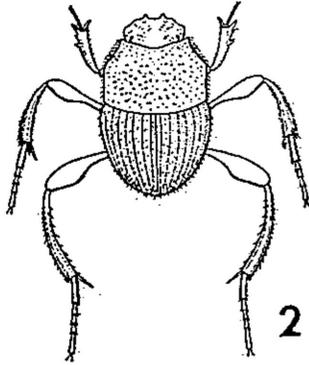


図2 *Sisyphus longipes* OLIV. (ARROW, 1931 より)

\**Sisyphus indicus* HAR.

インドアシナガタマオシコガネ

記録：埤里 (三輪)

\**Sisyphus bowringi* WHITE

ボウリングアシナガタマオシコガネ

記録：恒春 (三輪) (図一加藤)

\**Sisyphus longipes* (OLIV.)

アシナガタマオシコガネ

記録：Akau (三輪) (図-2)

\**Sisyphus thoracicus* SHARP

コウトウアシナガタマオシコガネ

記録：紅頭嶼 (三輪)

3. Panelini

3-1 *Panelus* マメダルマコガネ属

野村 (1973) は 2 新種を記載している。三輪・中条 (1939) は *P. parvulus* を記録しているが前 2 種のいずれかと同一かもしれない。

*Panelus crenatus* NOM.

コンテイマメダルマコガネ\*

背面はほとんど無毛で上翅は長幅同等。尾節板はこまかく点刻され、弱く縦に突出することなどで次種と区別できる。体長約 3 mm。壟丁で得られている。

*P. maedai* NOM. マエダマメダルマコガネ\*

背面は極めて短かい毛を装う。上翅はわずかに巾広い。尾節板は粗く密に点刻され、こまかい毛を装い弱く突出する。体長 2.7~3 mm。奮起湖で得られている。

\**P. parvulus* (WATERH.) マメダルマコガネ

記録：港口 (三輪)

3-2 *Paraphytus* ダルマコガネ属

本邦と共通の 1 種が記録されている。

*Paraphytus dentifrons* (LEWIS) ダルマコガネ

古くは三輪 (1931) がツツガタコガネの和名 (あまりこの名は体をあらわしていない) で、新しくは中根 (1963) が記録している。

記録：紅頭嶼 (=蘭嶼) (三輪)

4. Coprini

台湾から記録のある *Coprini* を ARROW (1931) により区分すると次のようになる。

台湾産 *Coprini* の検索

- 1(2) 前胸背には 2 条の側隆起を具える。 *Synapsis* BATES
- 2(1) 前胸背には 1 条の側隆起を具える。
- 3(4) 前胸背基部の中央附近に 2 個のくぼみを有する。♂♀とも前跗節を欠く。 *Onitis* F.
- 4(3) 前胸背は基部中央附近に 2 個のくぼみなし。
- 5(4) 小楯板を欠く。
- 6(9) 上翅は 2 側隆起を具える。
- 7(8) 触角の第 1 節は光る。 *Heliocopris* BURM.
- 8(7) 触角は全体に軟毛を装う。 *Catharsius* HOPE.
- 9(6) 上翅は 1 側隆起を具える。
- 10(1) 前胸背は基部に溝を具える。 *Copris* GEOFF.
- 11(0) 前胸背基部に強い溝はない。
- 12(3) 前脛節先端は内縁に対して直角で、さらに前胸下面角はえぐられる。 *Caccobius* THOMS.
- 13(2) 前条件のいずれか、または両方とも欠ける。 *Onthophagus* LATR.
- 14(5) 小楯板を有す。
- 15(4) 上翅は後縁前で縁毛を装わない。 *Liatongus* REITT.
- 16(5) 上翅は後縁前で縁毛を装う。
- 17(4) 腹節の両側は上方に露出。 *Oniticellus* SERV.
- 18(7) 腹節の両側は上方に露出しない。(注) *Drepanocerus* KIRBY.

(注) BALTHASAR (1963) によれば *Drepanocerus* は、しばしば小楯板が完全に見えない場合があるという。その場合は上記の検索は具合が悪いのだが、台湾から記録されている種はよく見えるので一応このままとした。

4-1 *Synapsis* オオヒラタダイココガネ属\*

*Copris*-group としては大型でやや扁平な体形で、♂♀の差はほとんどない。従来 1 種が知られていたが、最近もう 1 種分布していることが分った。

*Synapsis davidi* FRM. ダビデダイココガネ

大型 (28~33 mm) で前胸背に低い大きい横隆起を具える。海拔 500~1500 m の山地に生息し、牛糞や人糞に來集する。南山溪や霧社で見られ、また三輪は恒春を記録している。成虫越冬もする。なお、益本 (1973) の営巣観察報告がある。(写真 9, 10)

*S. yama* GIL. ヤマダイコクコガネ\*

前種より小型 (27~29mm) で前胸背は単純なのですぐ区別がつく。南山溪で採集されているがきわめて少ないようである。加藤が前種の♀として図示しているのは本種である。(写真11)



写真9 *Synapsis davidi* FRM.  
写真10 *S. davidi* の育児球 (中央に2個見える)  
写真11 *S. yama* GIL.

4-2 *Onitis* ヒラタダイコクコガネ属

中型で長卵形をしており、前胸背が大きく、♂♀共に前跗節を欠く。アジア南部から南ヨーロッパ、アフリカにかけて分布する。台湾から2種が三輪(1931)によって記録されたが疑わしい。



写真12 *O. philemon* (F.)  
(BALTHASAR, 1963より)

\**Onitis falcatus* (WULFEN)

ホリシャヒラタダイコクコガネ

記録: 埴里 (三輪) (図一加藤)

\**O. philemon* (F.) フィレモンヒラタダイコクコガネ

記録: 高雄 (三輪) (写真12)

4-3 *Heliocopris* ナンバンダイコクコガネ属

本属は大型で、がっちりとした体格をし、頭胸背に角~隆起を具えているものが多く、アフリカを中心にアラビアやインド、ジャワ等東南アジアにかけて分布し、ゾウの分布と一致しているといわれている。台湾から1種の記録があるが、真に分布しているとは考えにくい。

*Heliocopris midas* (F.) ミダスダイコクコガネ

農業試験場の標本は素木のラベルで、地名が記されていない。

記録: 恒春 (三輪) (図一加藤) = ナンバンダイコク

4-4 *Catharsius* タイワンダイコクコガネ属

*Copris* にきわめて近いグループで、東南アジアからアフリカまで広く分布する。台湾では *C. molossus* が各地で普通に見られるが、最近では記録にある2種の分布が確認されていない。

*Catharsius molossus* (L.) タイワンダイコクコガネ  
体長23~40mm, 光沢の鈍い黒色をし、頭胸背には角~隆起を具えるが、個体差がある。牛糞を好み直下に10~40cmの深さの穴を掘り糞を運び込む。燈火にも飛来する。台湾本島のほか蘭嶼などからも採集されている。(図-3)

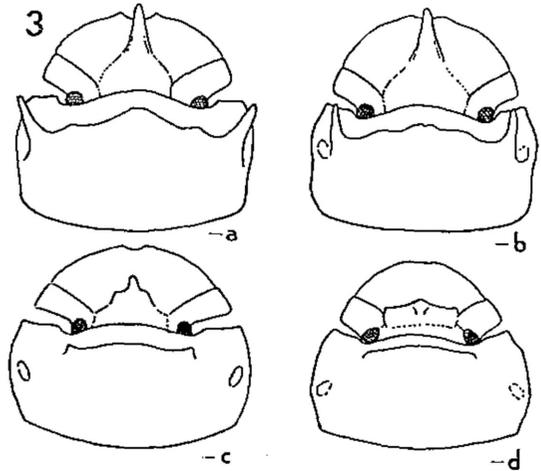


図3 *Catharsius molossus* (L.) a~c-♂, d-♀  
(BALTHASAR, 1963より)

\**C. pithecius* (F.) ピテシウスダイコクコガネ

前種と同大で、よく似ているが♂の頭頂の角は先端に向うにつれ前方へ曲っている。(図4-2)

記録: 阿里山 (三輪) (図一加藤) なお、同試験場の標本は頭部が欠落していて、同定困難であった。



写真13 *C. javanus*  
LANSB.

また、三宅氏所蔵の VI-1941, Y. YANO も本種と思われる、台湾に分布するものと考え。

*C. javanus* LANSB. ジャ  
ワダイコクコガネ

体長16~22mm, 黒色で絹  
状の鈍い光沢を有し、頭頂に  
1角と、前胸背前方に1対の  
大隆起を具える。(写真13)  
(図4-1)

記録: 魚池, 台南, 安平 (三  
輪)

農業試験場の標本では、三  
輪のラベルで太平山, 台南,  
クラルの個体を検した。ま

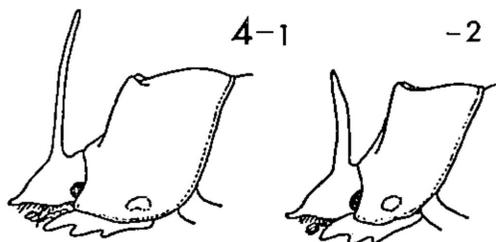


図 4-1 *Catharsius javanus* LANSB.  
-2 *C. pithecius* (F.) (BALTHASAR, 1963 より)

#### 4-5 *Copris* ダイコクコガネ属

三輪・中条 (1973) は6種の *Copris* を記録している  
が、野村 (1973) はそのうちの3種と新たに1種の分布  
記録を加えた。また、加藤の図鑑にはサンボンダイコク  
という和名の不明種を含め7種が図示されているが、戦  
前の記録は検討と整理が必要である。

*Copris* (s. str.) *tripartitus* WATERH.

ヒメダイコクコガネ

GILLET (1921) は台湾から、頭部の角の基部に鋭く  
大きい歯状突起を有する, var. *formosanus* を記録し  
ているが、はたして亜種的なものか否かは不明である。  
南山溪で得られているほか、鳳凰山 (三輪) の記録もあ  
る。

*C.* (s. str.) *fukiensis* BAL.

フッケンダイコクコガネ\*

野村 (1973) が新記録したものであるが、*C.* (s. str.)  
*acutidens* によく似ているので、古い記録では次種と混  
同されている場合もあろう。奮起湖で得られている。

\**C.* (s. str.) *acutidens* MOTS.

ゴホンダイコクコガネ

三輪は台北, 七星屯, 甲仙埔から記録し、加藤の図鑑  
には台湾があげられている。

\**C.* (s. str.) *sinicus* HOPE

マルガタコダイコクコガネ

加藤は上記の和名で図示しているが分布の真疑は不  
明。東南アジア・中国南東に分布。

*C.* (s. str.) *confucius* HAR.

タカサゴコダイコクコガネ

三輪 (1931) は *C. confucius* タイワンコダイコク,  
三輪・中条 (1939) では *C. confucius* および同和名,  
加藤 (1933) は *C. confucius* タカサゴコダイコクとし  
ている。なお加藤が図示しているもののうち合は明らか  
に本種ではない。

記録: 眉原, 安平, 恒春 (三輪)

農業試験所では三輪の眉原16-VII-1937を検したが前述  
*O. fukiensis* の誤りではないかと思う。

\**C.* (s. str.) *ochus* MOTS. ダイコクコガネ

加藤の図鑑に分布地として掲げられている。

*C.* (*Paracopris*) *cariniceps* FEL.

スジアシダイコクコガネ

体長11~13mm, 光沢がなく、頭楯前縁は三角に切れ  
込み、両眼間に中央部間瘤状に高まった隆起を具えてい  
る。牛糞, 人糞に集まる。主に夏季に出現するが次種  
より少ない。墾丁や南山溪, 蘭嶼等で得られたが、三輪  
は Sokutsu を記録している。(写真14)

*C.* (*Microcopris*) *propinquus* FEL.

マメダイコクコガネ

体長10~11mm, 前種にやや似るが光沢があり、上翅  
の条溝も明らかである。人糞で得られる  
が、墾丁では冬期でも  
活動していた。このほ  
か、南山溪, 霧社など  
で得られている。(写真  
15) 三輪らも記録して  
いる。



写真14 *Copris cariniceps*  
FEL.

また、*C.* (*M.*) *reflexus* (F.) コウトウマメ  
ダイコクコガネの記録があるがこれは、前述の *C.* (*M.*)  
*propinquus* に酷似する。三輪は紅頭嶼から記録してい  
るが、前種の可能性が大きい。最近の標本の中からは本  
種を見出せない。

*C.* (*M.*) *propinquus* は頭楯中央が小さく深く彎入  
し両側はまるまった歯状、上面はごくわずかに金属光沢

を帯びるのに対し、*C. (M.) reflexus* は頭楯中央がより広く三角に彎入し、両側はかなり鋭く尖り、頬の外角は中央前で鈍くまるまり、また上面がまったく黒色である点などで区別されているという。(図5)

(注) *Copris* の亜属については、一応 BALTHASAR(1963)に従ったが、まだ必ずしも充分とはいえない。

台湾産 *Copris* の亜属の区別点

1. 中～大型(まれに小型)。黒色でたいてい光沢があり、体は強くふくらむ。♂♀の性差は顕著。肢は強壯、中後脛節は先端に向け強く広がり、また中後附節も強壯で基部は三角に広がる。

Subgenus *Copris*

2. 中～小型。わずかに膨隆するか、やや扁平な種を含み、上面の光沢はないか弱く、黒～黒褐色～暗褐色。肢は原亜属にくらべ、ほっそりしている。頭楯は、しばしば特異な突起を有することがある。

Subgenus *Paracopris*

3. 小型で強くふくらむ。光沢が強く、黒色で金属光沢を帯びる場合がある。頭楯は普通。前胸背前角部下面はえぐられる。

Subgenus *Microcopris*

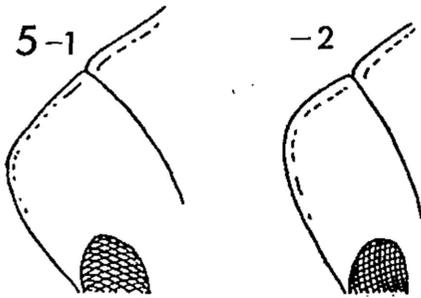


図 5-1 *Copris reflexus* (F.)

5-2 *C. propinquus* F. (BALTHASAR, 1963 より)

4-6 *Liatongus* ツノコガネ属

2種の分布記録があるが、そのうちの1種の分布は疑わしい。

*Liatongus phanaeoides* (WEST.) ツノコガネ

台湾のツノコガネは日本のそれにくらべ、概して小型、やや細長で体のつくりが軟弱、体下が赤味がかかる。牛糞を好み、500～2500mの山地で見られるが、高地の個体は日本のものによく似て大型で黒色がかかる。冬期でも活動していた。なお三輪の記録では平地があげられているが著者は平地では本種を見たことがない。

*L. vertagus* (F.) クリイロツノコガネ

体長7.5～11mm、暗褐色で頭部と前胸背前方に先端が二又状の角を具える種である。三輪の埔里の記録と、加藤の図鑑で *Oniticellus vertragus* として図示されているものがある。(図-6)

4-7 *Oniticellus* ツノナシツノコガネ属\*

中～やや小型で、長形、上翅はやや平圧され腹部の一

部を露出させ、汚黄色～黄褐色、または褐色で稀に黒色で明るい色に暗色の紋を装うこともある。小楯板は明らかで上翅は後縁前で剛毛を具える。♂♀の性差はほとんどない。アフリカからヨーロッパ、アジアおよびキューバ等から知られるが、台湾の記録には疑問がある。

\**Oniticellus pallipes* (F.) ゴマフツノコガネ

体長6.5～9mm、橙黄色で暗色点紋を有する。ヨーロッパからアジアまで広く分布する種である。三輪の恒春の記録がある。(図7)

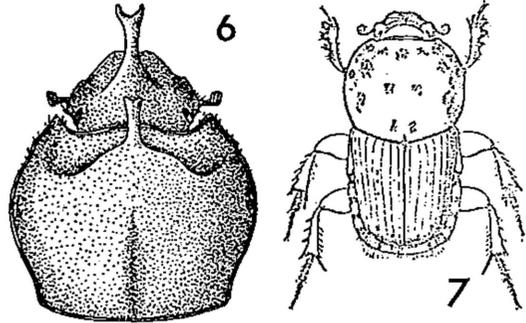


図6 *Liatongus vertagus* (F.) の頭胸背 (BALTHASAR, 1963 より)

図7 *Oniticellus pallipes* (F.) (ARROW, 1931 より)

4-8 *Drepanocerus* オニツノコガネ属

中～小型で長型。上面は平圧され、表面は粗造、所々に直立した鱗状毛を装う。小楯板はしばしばよく見えないう、明確でない(前述)。アフリカからアジア(インド、中国など)まで分布する。加藤はオニマグソコガネの和名で1種を図示しているが、実際に分布するかどうかわからない。

*Drepanocerus arrowi* BAL.

タカサゴオニツノコガネ\*

体長8～12mm。前脛節先端は切断状で、外角は小さな歯状を呈し、脛節外縁は4歯を具えるように見える。前胸背には特にきわだった角や隆起を具えない。南山溪で得られている。(図8)

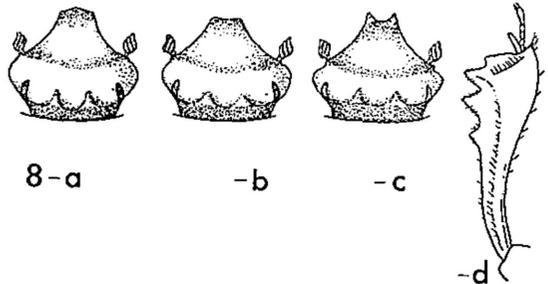


図8 *Drepanocerus arrowi* BAL. a-♂大型, b-♂小型 c-♀, d 同前肢節 (BALTHASAR, 1963 より)  
(オニツノコガネ属次回へ続く)

Some New Subspecies of the *Aegus laevicollis* SAUNDERS  
from Japan (Coleoptera, Lucanidae)

By Toshiyuki ICHIKAWA<sup>1)</sup> and Osamu IMANISHI<sup>2)</sup>

日本産ネプトクワガタの4新亜種

市川敏之・今西 修

(Received Oct. 30, 1975; Accepted Feb. 5, 1976)

*Aegus* 属は1819年に MACLEAY によって創設された属で模式種は *Aegus chelififer* MACLEAY である。同属に含まれる種の多くは東洋区・オーストラリア区に広く分布し、一部は旧北区におよんでいる。クワガタムシ科の属の中では *Aegus* 属はきわめて多くの種を含む大属であり、現在、旧北区に位置する本邦からは *Aegus laevicollis* SAUNDERS が同属唯一の種として知られているが、日本における同種の分布は *Aegus* 属の分布北限となっている。

私たちはここ数年米 *Aegus* 属に興味をもって調査を行ってきたが、ここでは日本に分布する *Aegus* 属 (*A. laevicollis*) について現段階での知見を述べるとともに *Aegus laevicollis* の沖縄本島、沖永良部島、トカラ列島(悪石島・諏訪瀬島)、伊豆諸島(八丈島)の産地産のものをそれぞれ新亜種として記載する。本文に先立ち、種々のご指導を頂き、かつ本文のご校閲を賜

った中根猛彦博士、およびご指導・ご助力くださった玉貫光一、阿部 東、高桑正敏、藤田 宏、宮原道則、秋山達也、庄田達巳の諸氏に深く謝意を表する。

*Aegus laevicollis* SAUNDERS is a unique representative of the genus *Aegus* MACLEAY in Japan. Three subspecies of the *Aegus laevicollis* SAUNDERS have been known to occur in Japan; subsp. *subnitidus* WATERHOUSE, 1873 (Japan main islands; Honshû, Shikoku, Kyûshû), subsp. *taurululus* DIDIER, 1928 (Is. Amami-Ôshima); subsp. *ishigakiensis* NOMURA, 1960 (Is. Ishigaki, Is. Iriomote). In this paper, the author describes following four new subspecies. All holotype specimens may be deposited in the National Museum of Japan (Tokyo) and paratypes are in authors' collections.

*Aegus laevicollis nakanei* subsp. nov.

Male (minor): Body deep reddish brown and somewhat glossy. Mandible thick, relatively shorter than in other subspecies, strongly incurved with a small triangular tooth near base, sharp at apex and gradually broadened to base, where it is finely and sparsely punctured. Head rather shiny, narrower than prothorax and elytra; covered with deep, large and dense punctures all over. Pronotum slightly rounded at sides and punctured

as head at median and on lateral parts. Elytra as broad as prothorax, covered with delicate and fine punctures: deeply striate as usual, dorsal interstices scarcely convex.

Length: 10-12.5mm Width: 4.1-4.3mm

Distribution: Is. Okinawa

Holotype: ♂, Mt. Yonahadake, Is. Okinawa, July 8, 1973, Tatsumi SHOODA leg.

Paratypes: 1♀, Yona, Is. Okinawa, June 16-17, 1970, Jirô KOMIYA leg; 2♂♂, Yona, Is. Okinawa, May 23, 1972, IMANISHI leg.

Present address

1) 2-1-17, Ôji-honchô, Kita-ku, Tôkyô city (〒114)

2) 16-34, Nakamurachô, Ibaragi city, Osaka Pref. (〒567)

*Aegus laevicollis tamanukii* subsp. nov.

Male (minor): Body black and opaque. Mandible resembling that of subsp. *A.I. nakanei* subsp. nov., but longer and less strongly incurved, with base bearing a few punctures. Head densely covered with large and deep punctures, the larger ones of which consist of 2 or 3 small punctures. Pronotum densely and finely punctured, except lateral parts and median longitudinal zone, where it is punctured as head.

Length: 13-16mm Width: 4.2-5.5mm

Distribution: Is. Okinoerabu (Nansei Islands)

Holotype: ♂, Mt. Oyama, Is. Okinoerabu, March 22, 1972, IMANISHI leg.

Paratypes: 1♂, 1♀, Mt. Oyama, Is. Okinoerabu, March 22, 1972, IMANISHI leg.

This new subspecies is easily distinguished from the nominate subspecies by the strong and dense puncturation on head and pronotum.

*Aegus laevicollis abei* subsp. nov.

Male: Body black and shiny. Mandible relatively long and curved inwards, one or two small teeth jutted out from inner margin near base. In large males each mandible with two small teeth at base, but only one in small males, and the development of teeth in medium-sized males less marked than that of males of same sized in other subspecies. Head narrower than prothorax and elytra, sparsely with shallow and large punctures. In large males, a pair of fine projections present on upperside of head near base of mandibles. Pronotum wholly covered with fine punctures, and with large punctures on lateral

parts and at middle.

Length: 11-26mm Width: 4-9.5mm

Distribution: Islands. Tokara (Is. Akuseki and Is. Suwanose)

Holotype: ♂, Is. Akuseki, Aug. 4, 1973, IMANISHI leg.

Paratypes: 55♂♂, 21♀♀, Is. Akuseki, Aug. 4, 1973, IMANISHI leg.; 65♂♂, 20♀♀, Is. Akuseki, Aug. 5, 1973, IMANISHI leg.; 40♂♂, 25♀♀, Is. Akuseki, Aug. 4, 1974, MICHINORI MIYAHARA leg.; 1♂, 1♀, Is. Suwanose, Aug. 1, 1973, IMANISHI leg.

*Aegus laevicollis fujitai* subsp. nov.

Male (minor): Body black and shiny. Mandible long and slender, acuminate at apex, becoming broader towards base where it bears a small tooth and shallow punctures sparsely scattered. Head and pronotum lustrous and the edges slightly punctured.

Length: 15.4-20.5mm Width: 4.6-6.5mm

Distribution: Is. Hachijō (Islands. Izu)

Holotype: ♂, Sueyoshi, Is. Hachijō, July 10, 1975, Hiroshi FUJITA leg.

Paratypes: 2♂♂, Kashidate, Is. Hachijō, June 26, 1972, IMANISHI leg.; 1♀, Kashidate, Is. Hachijō, June 23, 1973, ICHIKAWA leg.; 1♂,

2♀♀, Nakanogō, Is. Hachijō, June 21, 1973, Tatsuya AKIYAMA leg.; 1♀, Miharayamarindō, Kashidate, Is. Hachijō, July 9, 1975, ICHIKAWA leg.; 1♀, Sueyoshi, Is. Hachijō, July 10, 1975, Masatoshi TAKAKUWA leg.

This new subspecies is closely related to subspecies *abei* subsp. nov., but distinguished from the latter by having a squarish projection at the outside of base of mandible. Also this new subspecies is characterized by having fewer punctures on the head and pronotum as compared with other subspecies.

Some New Subspecies of the *Aegus laevicollis* SAUNDERS from Japan

	Mandible	Body, head and pronotum	Distribution
<i>A.l. nakanei</i>	Thick, relatively shorter than body, strongly incurved. Base thick, with finely and sparsely punctured.	Body: somewhat glossy. Head: covered with deep, large and dense punctures all over. Pronotum: punctured as head at median and lateral parts.	Is. Okinawa.
<i>A.l. tamanukii</i>	Slender, relatively long and less strongly incurved. Base thick, with finely and sparsely punctured.	Body: opaque. Head: covered with deep, large and dense punctures all over, the larger ones of which consist of 2 or 3 small punctures. Pronotum: punctured as head at median and lateral parts.	Is. Okinoerabu.
<i>A.l. abei</i>	Long and slender, mildly curved inwards at apical half.	Body: shiny. Head: covered sparsely with shallow and large punctures. Pronotum: covered wholly with fine punctures, and with large ones at lateral and posterior middle parts.	Islands Tokara (Is. Akuseki and Is. Suwanose)
<i>A.l. fujitai</i>	Long and slender, mildly curved inwards at apical half. A squarish projection being at the outsides of base.	Body: shiny. Head and pronotum: lustrous and edges slightly punctured.	Islands Izu. (Is. Hachijō)

Acknowledgement

At the final place, I wish to offer my warmest thanks to Dr. Takehiko NAKANE of Department of Zoology, National Science Museum, Tokyo for kindly placing to the specimen in my hands for study, and to Mr. Azuma ABE, Mr. Kouichi TA-

MANUKI, Mr. Masatoshi TAKAKUWA, Mr. Hiroshi FUJITA, Mr. Tatsumi SHOODA, Mr. Michinori MIYAHARA, Mr. Tatsuya AKIYAMA for their kind taking trouble to compare with the type specimens.

摘 要

1) *Aegus laevicollis nakanei* subsp. nov. は、小型個体を3匹検したのみであるが大腿が太く、体長のわりに短く、強く円形状に湾曲していることで、容易に他産地の個体と区別できる。個体の示す特徴からあるいは新種とも考えられるが、沖永良部島産の subsp. *tamanukii* の大腿と比較すると共に円形状に湾曲する特徴を示すので、現段階では亜種が妥当であろうと考えた。主に沖縄本島北部地域に産するが個体数はきわめて少ないようである。

2) *Aegus laevicollis tamanukii* subsp. nov. は、頭部および前胸部の点刻が顕著に他産地のものと異なる。♂の大腿の形態は沖縄本島産の subsp. *nakanei* に似るが細長いことと湾曲がゆるやかなことで区別できる。本亜種と沖縄本島産 subsp. *nakanei* は、個々に検すると新種とも思われる顕著な特徴を有するが、両島産

を比較すると大腿の湾曲に類似特徴が認められるので、亜種とすることが妥当と考えた。本亜種は、沖永良部島に産するが同島に渡島する採集者が少ないためか、多くは得られていないようであり、今後、多くの個体が得られることを期待するものである。

3) *Aegus laevicollis abei* subsp. nov. は、在来亜種と同じ体長の中型個体でも大腿の小歯の発育が悪く、大腿の湾曲は先端に向かってなだらかに曲がり、角度は強くない。大腿は細長いので全体を見ると刀のような感じを受ける。大型個体♂は大腿の基部よりやや後の頭部に突起を有するが、この特徴は他産地の個体では、台湾産 subsp. *formosae*、奄美大島産 subsp. *taurus*、屋久島産 subsp. *subnitidus* のものに見られる。なお、同列島の両島以外の標本は中之島の1匹を検しただけであるが、その大腿の形態は本亜種と区別しうる特徴を有

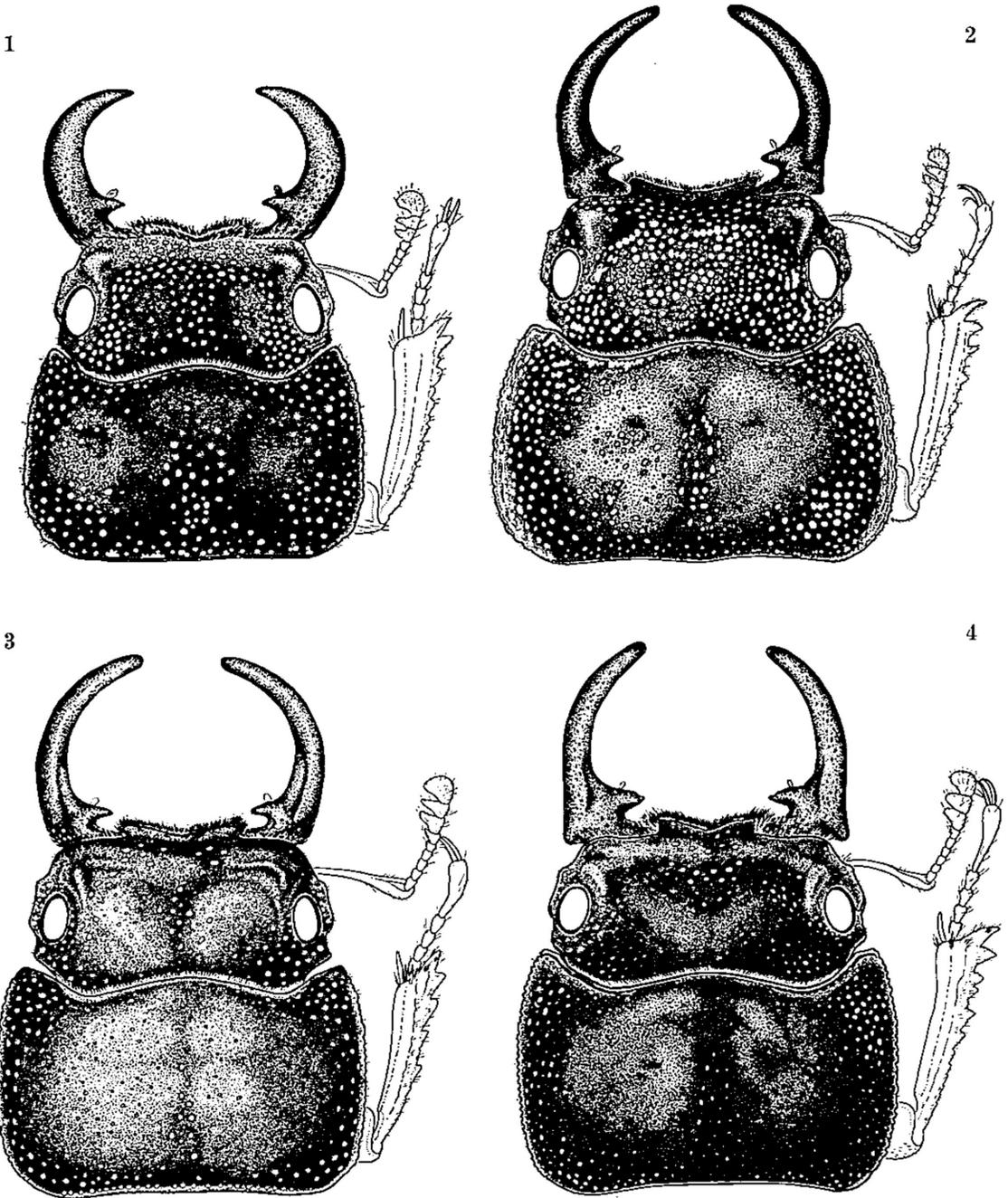
しており、今後より多くの個体を比較研究したい。悪石島では個体数はかなり多いようで路上を歩行中の個体が多く得られている。

4) *Aegus laevicollis fujitai* subsp. nov. は、トカラ列島悪石島・諏訪瀬島産の subsp. *abei* に類似する形態を有するが、大腿の基部の外側の部分が角ばって外側に突き出していることにより区別できる。本亜種は伊豆諸島の八丈島に分布する個体にもとずいて記載したが、同諸島の新島、神津島、三宅島、御蔵島の個体と比較し

て、頭部および胸部の点刻が少ないことにより区別できる。新島産の個体の中には、台湾産の subsp. *formosae*、奄美大島産の subsp. *taurus* のように胸部の点刻が深く、大きく密である個体が含まれており、三宅島・御蔵島産の個体は、大腿がトカラ列島の悪石島・諏訪瀬島産の subsp. *abei* に似るものがあるが、頭部および胸部の点刻が多い点で異なる。現在のところ八丈島以外の伊豆諸島の個体に考察を加え区別するまでにはいたっていない。八丈島では個体数はやや少ないようである。

参 考 文 献

- BATES, H.W. : On a Collection of Coleoptera from Formosa, sent home by R. Swinnoe, Esq., H.B.M. Consul Formosa.; Proc. Zool. Soc. Lond., p.347, 1866.
- BENESH, B. : Coleopterorum Catalogus Suppl., p.103, 1960.
- DIDIER, R. : Étud. Coleopt. Lucan. II, p.54, 1928.
- : Lucanides du Grobe., p.159, 1951.
- MIWA, Y. : A List of Japanese Lucanidae with the Description of one new species.; Ins. Matsum. II, p.27, 1927.
- : A studd on the Lucanid-Coleoptera from the Japanese Empire (4). (大日本鍬形蟲科の種の研究(4)); Trans. Nat. Hist. Soc., Formosa, XXII, p.367, f. 5, 10.
- : ————— (5). I.C. XXIV, p.323, 329, 1934.
- : Coleoptera from Amami-islands in Loochoo Archipelago; Trans. Kansai Ent. Soc. VI, p.11-30, 1935.
- MIWA, Y & CHŪJŌ, M. : Catalogus Coleopterorum Japonicorum, pars 2, Lucanidae, p.9, 1936. (日本産鞘翅目分類目録. 鍬形蟲科).
- MÖLLENKAMP, W. : H. Sauter's Formosae-Ausbeute. (I).; Ent. Mitteil., I, p.8, 1912.
- : ————— (II).; Suppl. Ent., Nr., 2, 1, p.21, 1913.
- NOMURA, S. : List of the Japanese Scarabaeoidea.; Tōhō-Gakuhō, 10, p.39-79, 1960.
- : Zoogeographic study of the Scarabaeoidea of the Loochoo Archipelago, with a list of the known species and subspecies from there.; Tōhō-Gakuhō, 15, p.69, 1960.
- : Iconographia Insectorum Japonicorum Colore Naturali Edita., II, (Coleoptera), p.110, pl., 55, 3a-3d, 1963.
- OKAJIMA, S & KOBAYASHI, H. : A New Stag-beetle of the Genus *Aegus* MACLEAY from the Bonin Islands.; Bull. National Sci. Mus., Vol. 1, No. 2, p.119, 1975.
- PARRY, M. : Major Parry's Catalogue of Lucanoid Coleoptera.; Trans. Ent. Soc. Lond., II, p.92, pl. 12, f. 5, 1864.
- SAUNDERS, W. : Characters of undescribed Lucanidae, collected in China, by R. Fortune, Esq.; Trans. Ent. Soc. Lond., (2)III, p.54, pl. 4, f. 8, 1854.
- WATERHOUSE, C.O. : On the Pectinicorn Coleoptera of Japan; Ent. Monthl. Mag. K, p. 277, 1873

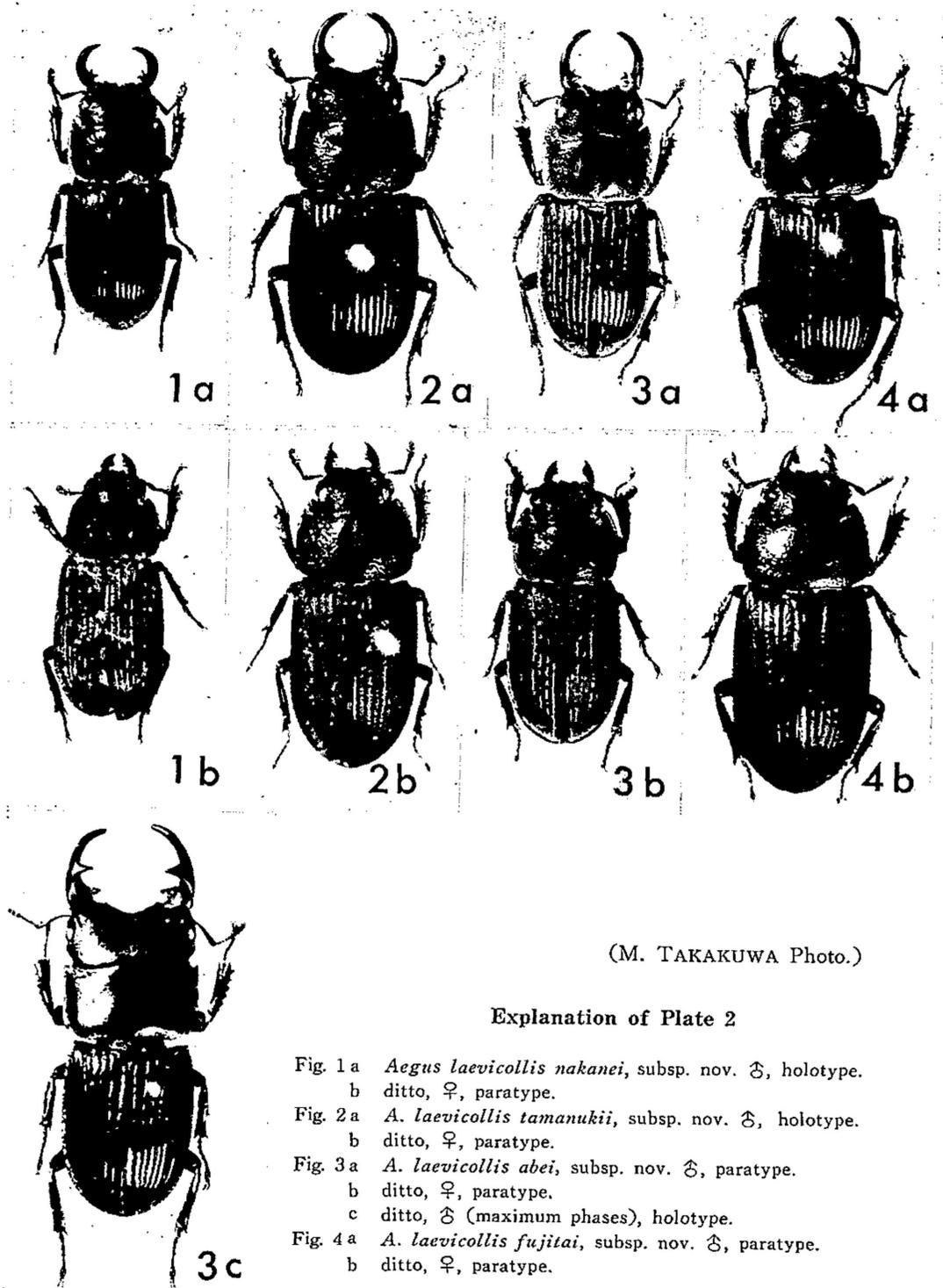


(H. FUJITA del.)

Explanation of Plate 1

- Fig. 1 *Aegus laevicollis nakanei*, subsp. nov.
- Fig. 2 *A. laevicollis tamanukii*, subsp. nov.
- Fig. 3 *A. laevicollis abei*, subsp. nov.
- Fig. 4 *A. laevicollis fujitai*, subsp. nov.

Plate 2



(M. TAKAKUWA Photo.)

Explanation of Plate 2

- Fig. 1 a *Aegus laevicollis nakanei*, subsp. nov. ♂, holotype.  
 b ditto, ♀, paratype.  
 Fig. 2 a *A. laevicollis tamanukii*, subsp. nov. ♂, holotype.  
 b ditto, ♀, paratype.  
 Fig. 3 a *A. laevicollis abei*, subsp. nov. ♂, paratype.  
 b ditto, ♀, paratype.  
 c ditto, ♂ (maximum phases), holotype.  
 Fig. 4 a *A. laevicollis fujitai*, subsp. nov. ♂, paratype.  
 b ditto, ♀, paratype.

# 八重山諸島のハナノミ族リスト

高 桑 正 敏

List of the Tribe Mordellini from Yaeyama Islands (Japan)

By Masatoshi TAKAKUWA

(Received and Accepted Oct. 30, 1975)

沖縄県八重山諸島のハナノミ科ハナノミ族については、鹿野 (1930) が石垣島から *Glipa mallaccana* PIC を記録したのが最初だが、その後 KŌNO (1932), MIWA (1933), NOMURA (1963, 1966) によっても計3属5種が知られるにすぎなかった。最近、筆者は同好諸氏からこの地域のハナノミ科標本を多数譲り受けることができ、多くの新知見を得たのでここにその記録をまとめることにする。

このリストを作成するにあたり、日頃から御教示いただき、また各種資料の蒐集に多大な援助をいただいた野村 鎮氏、中根猛彦博士、黒沢良彦博士、畑山武一郎氏に深く感謝申しあげると同時に、小宮次郎・入江平吉両氏はじめ標本を提供下さった多くの方々へ改めてお礼申しあげる。

リスト中、種名後の \*印は八重山諸島初記録種、分布の項の \*印はその地域の初記録を意味する。

## 1. *Higehananomia palpalis* KŌNO

クリイロヒゲハナノミ

NOMURA, 1966, p.46 (西表島)

検視標本：石垣島\* (パンナ岳：4♂♂, 31. V. 1972, 入江平吉採集；1♀, 4. VI. 1972, 入江採集；1♂, 9-24. VI. 1972, 窪木幹夫採集；1♂, 19. VII. 1972, 郡山信夫採集；他多数), 与那国島\* (1♂, 宇良部岳, 1-30. VII. 1973, 水沼哲郎採集)

分布：Honshū, Shikoku, Kyūshū\*, Izu Islands\*, Yaku-shima, Amami-ōshima\*, Tokuno-shima\*, Okinawa Is.\*, Yaeyama Islands, Formosa

九州：1♀, 鹿児島市, 26. IX. 1970, 今村佳英採集, 伊豆諸島：1♂1♀, 御蔵島里, 23. VII. 1974, 下村徹採集, 奄美大島：八津野；1♀, 7. VII. 1973, 畑山武一郎採集；1♂, 10. VII. 1973, 今坂正一採集, 徳之島：3♂♂

Present address: 3577, Mutsuurachō, Kanazawa-ku, Yokohama city, Kanagawa Pref. (〒236)

3♀♀, 大田布岳のリュウキウウラジログシ枯材を1971年1月に採取, 横浜にて14. VII-31. VII. 1971に脱出, 高桑正敏採集, 沖繩本島：1♂, 与那, 28. VI. 1972, 郡山採集；与那覇岳：1♂, 2. VI. 1972, 入江採集；1♀, 25. VI. 1974, 清野隆採集

石垣島パンナ岳はじめほとんどが灯火に飛来してきたものが採集された。日本産ハナノミ族のうち、しばしば灯火に飛来するのは本種だけである。

## 2. *Glipa sauteri* PIC\* ザウテルオビハナノミ

検視標本：石垣島 (米原：1♀, 4. VI. 1973, 秋山黄洋採集；1♂, 16. VI. 1973, 小宮次郎採集；3♂♂, 19. VI. 1973, 秋山採集)

分布：Yaku-shima, Amami-ōshima, Yaeyama Islands\*, Formosa

## 3. *Glipa shibatai* NAKANE\* ワモンオビハナノミ

検視標本：石垣島 (オモト岳：2♂♂4♀♀, 2-15. VI. 1972, 入江採集；1♀, 13. VI. 1972, 小林敏男採集；5♀♀, 20-23. V. 1974, 入江採集；1♀, 11. VI. 1974, 高桑採集), 西表島 (1♀, 白浜, 11. VI. 1972, 入江採集)

分布：Honshū, Yaku-shima, Amami-ōshima, Yaeyama Islands\*, Formosa

## 4. *Glipa malaccana ishigakiana* KŌNO

イシガキオビハナノミ

鹿野, 1930, p.205 (*G. malaccana*, 石垣島), KŌNO, 1932, p.152, pl. IV, f. 1 (*G. ishigakiana*, 石垣島)；MIWA, 1933, p.10 (*G. malaccana*, 西表島)；NOMURA, 1966, p.46 (与那国島)

検視標本：石垣島 (5♂♂1♀, 米原, 24. V. 1974, 高桑採集；1♀, オモト岳, 1. VI. 1972, 入江採集；他若干数), 西表島 (3♂♂4♀♀, ヒドリ, 2-4. VI. 1974, 高桑採集；1♀, 古見, 30. V. 1973, 柏井伸夫採集；他若干数), 与那国島 (4♂♂1♀, 所野, 9-13. V. 1974,

入江採集)

分布: Yaeyama Islands

5. *Glipa azumai* NAKANE\* サタオビハナノミ  
 検視標本: 西表島 (2♂♂, 大富, 13-14. V. 1973, S. UEDA 採集; 1♂, 白浜, 1. VI. 1974, 高桑採集, 2♂♂, ヒドリ, 2. VI. 1974, 高桑採集; 4♂♂ 2♀♀, 祖納岳, 7. VI. 1974, 高桑採集)

分布: Kyūshū, Yaeyama Islands\*

本種は九州南端佐多岬で1949年7月24日に得られた1頭(♂)を基に記載され、今回西表島から報告されるまで久しく採集例を聞かなかったものである。西表島産の個体はタイプ標本よりも総じて大型、また上翅中央の環状紋の形も一見して異なり、別亜種として分けた方が適切と思われる。なお未発表ながら本種は台湾にも分布し、西表島産の個体とも異なるため、また別の亜種とされる予定である。

6. *Glipa* sp.\* イリエオビハナノミ (新称) (fig. 2)  
 検視標本: 石垣島 (オモト岳: 2♂♂ 1♀, 2. VI. 1972, 入江採集; 1♂, 20. V. 1974, 入江採集; 他多数), 西表島 (2♂♂ 3♀♀, ヒドリ, 2-3. VI. 1974, 高桑採集; 1♂ 1♀, 祖納岳, 7. VI. 1974, 高桑採集)

分布: Okinawa Is.\*, Yaeyama Islands\*

沖縄本島: 1♂, 与那覇岳, 25. VI. 1974, 清野採集  
 近く入江平吉氏の名をとって発表する予定の種である。日本およびその近くには本種と似たものはないようで、上翅の紋様といい、幅広く平たく切断される尾節板といい、きわめて特徴的なものである。また、沖縄本島産、八重山諸島産、台湾産(未発表)のそれぞれが上翅の紋様の位置など異なり、互いに別亜種関係と思われる。

7. *Glipa* sp.\* ニセコオビハナノミ (新称) (fig. 3)  
 検視標本: 石垣島 (1♂, 米原, 12. VI. 1974, 三蔭外茂治採集)

分布: Yaeyama Islands\*

この種は日本のコオビハナノミ *G. fasciata* KŌNO および台湾のミカズキオビハナノミ *G. alboscutellata* KŌNO にきわめて類似しているが、前種とは小楯板の微毛が白色なことで、後種とは前胸背に3大黒紋をもつことで容易に区別される。

- 8: *Tomoxia* sp.\* リュウキュウモンハナノミ (新称) (fig. 4)

検視標本: 石垣島 (オモト岳: 1♀, 5. VI. 1973, 小宮採集; 2♂♂, 25-26. IV. 1974, 入江採集; 1♀, 16. V. 1975, 深町宗通採集)

分布: Amami-ōshima, Okinawa Is. \*, Yaeyama Islands\*

沖縄本島: 1♂, 与那, 14. V. 1975, 深町採集

本種は台湾台北地方からの1頭(♂?)に基き、1935年に中条博士が記載した *T. formosana* にきわめて似ており外部形態からはほとんど区別できないが、1975年に台湾霧社にて採集された多数の *T. formosana* と思われるものの♂ゲンタリアを検したところ、石垣・沖縄本島産のそれとは著しく異なるために、八重山産は台湾産のものと別種関係にあると判断せざるを得ない。なお野村 (1963) が奄美大島より *T. formosana* として記録した1♀は本種のことと思われる。この種はまた地域によって異なり、この点についてはいずれ充分な資料を基に検討するつもりである。

9. *Hoshihananomia kirai* NAKANE et NOMURA  
 キラホシハナノミ

野村, 1963, p.248, pl. 124, f. 17 (石垣島): 高桑, 1972, p.14 (西表島)

検視標本: 石垣島 (米原: 1♀, 24. V. 1974, 高桑採集; 2♀♀, 9-10. VI. 1974, 高桑採集; 1♀, 12. VI. 1974, 三蔭採集; 2♀♀, 吉原, 10. VI. 1974, 井野川重則採集), 西表島 (3♂♂, ヒドリ, 24-26. VI. 1975, 矢野立志採集), 波照間島\* (1♀, 富嘉, 11. VI. 1973, 柏井採集)

分布: Yaeyama Islands, Formosa

一見次種によく似ており、同じ倒木上から両種が混じって見いだされるが、本種の方がはるかに少ない。次種とは尾節板の先端が針状に突ること、尾節板背面には白色微毛が一面におおっていることで容易に区別できる。台湾産とは微毛の色など異なり、別亜種が妥当である。

10. *Hoshihananomia composita sakishimana*  
 NOMURA コーシユンシラホシハナノミ

MIWA, 1933, p.10 (*H. composita*, 西表島): NOMURA, 1966, p.42 (石垣島)

検視標本: 石垣島 (26♂♂ 13♀♀, 米原, 8. VI. 1974, 清野採集; 2♀♀, 吉原, 11. VI. 1974, 畑守国採集; 3♂♂, 荒川, 24. V. 1974, 井野川採集; 他多数), 西表島 (1♂, 祖納岳, 7. VI. 1974, 高桑採集), 与那国島\* (1♂, 所野, 20. VI. 1972, 入江採集; 1♀, 祖納, 11. VI. 1973, 正木清採集, 1♂, 比川, 11. V. 1974, 入江採集)

分布: Yaeyama Islands

11. *Hoshihananomia borealis* NOMURA\*

コモソホシハナノミ

検視標本: 西表島 (1♀, 船浦, 8. VII. 1969, 藤田英生採集)

分布: Hachijō Is., Yaku-shima, Amami-ōshima, Yaeyama Islands\*

沖縄本島 (未発表) でも採集されているが、西表島は

意外な採集例である。

12. *Hoshihananomia katoï katoï* NAKANE et NOMURA\*

ニセキボシハナノミ

検視標本：西表島（1♂，カンピラ滝，1.Ⅶ.1973，小倉直樹採集；1♂，祖納，5.Ⅴ.1974，入江採集；4♂♀2♀♀，ヒドリ，2-3.Ⅶ.1974，高桑採集；1♂，祖納岳，7.Ⅶ.1974，高桑採集；2♂♂，仲良川流域，26.Ⅴ.1973，杉野広一採集）

分布：Shikoku, Yaku-shima, Amami-ōshima, Yaeyama Islands\*, Formosa

本種は地域差，個体差ともに大きい，ほぼ奄美大島以北，西表島，台湾と3つの型に分けられる。西表島産は概して小型，上翅は白色紋から成る個体が多い。

13. *Hoshihananomia splendens* (MIWA)

ヤエヤマキボシハナノミ

MIWA, 1933, p.10, f.3 (西表島)；NOMURA, 1966, p.47 (石垣島)

検視標本：石垣島（米原，3♀♀，16.Ⅶ.1973，小宮採集；1♀，4.Ⅶ.1973，秋山採集；4♀♀，19-20.Ⅶ.1973，秋山採集；2♀♀，24.Ⅴ.1974，高桑採集；1♀，川平，4.Ⅶ.1973，柏井採集），西表島（2♀♀，白浜，17-19.Ⅶ.1972，小林敏男採集；1♀，カンピラ滝，28.Ⅴ.1973，秋山採集；2♂♂2♀♀，ヒドリ，2.Ⅶ.1974，高桑採集；1♂1♀，祖納岳，7.Ⅶ.1974，高桑採集）

分布：Yaeyama Islands

日本産ハナノミでは最美麗種の1つと言えよう。♀はオオハマゴウの新しい伐木，切株に飛来するものがよく採集された。

14. *Mordellaria latior* NOMURA\*

カタジロハナノミ（新称）

検視標本：石垣島（1♂，オモト岳，11.Ⅶ.1974，高桑採集）

分布：Yaku-shima, Yaeyama Islands\*, Formosa

原記載から判断して本種に同定した。♂の採集例は今回が初めてと思われる。

15. *Variimorda ihai ihai* CHŪJŌ\*

ヨツモンハナノミ

検視標本：石垣島（オモト岳：1♀，14.Ⅶ.1972，入江採集；1♂，17.Ⅶ.1973，入江採集；1♂，7.Ⅴ.1974，入江採集；1♀，10.Ⅶ.1974，清野採集；他若干数），西表島（1♀，カンピラ滝，8.Ⅳ.1973，入江採集）

分布：Amami-ōshima, Tokuno-shima\*, Okinawa Is., Yaeyama Islands\*

徳之島：12♂♂10♀♀，犬田布岳のタブ立枯材を1971年1月に採取，横浜にて1.Ⅶ-19.Ⅶ.1971および23.Ⅶ-

2.Ⅶ.1972に脱出，高桑採集

本種は地域差，個体差ともに大きい，小腿枝や触角から判断して，島ごとに型が分けられる可能性がある。

16. *Variimorda miyarabi* NOMURA\*

ヒメキンオビハナノミ

検視標本：石垣島（米原：1♂，5.Ⅶ.1973，正木採集；1♂，20.Ⅶ.1973，秋山採集），西表島（1♂，白浜，30.Ⅴ.1974，高桑採集；1♀，祖納，16.Ⅶ.1974，三蔭採集）

分布：Amami-ōshima, Yaeyama Islands\*

八重山諸島産を奄美大島産タイプ標本と比較してみると，著しく黄色微毛が発達し，尾節板はより細く長く，また触角はより細く，末端節の形も違うなど大きな差がめだって，一見別種とも思えるが，♂♀ネタリアにきわだった差異が見い出せなかったため同種と判断した。近く台湾産（未発表）も含め，それぞれ別亜種として発表する予定である。

17. *Mordella* sp.\* オキナワキンケクロハナノミ

（仮称）(fig. 10)

検視標本：西表島（3♂♂5♀♀，カンピラ滝，8.Ⅳ.1973，入江採集；他多数）

分布：Okinawa Is.\*, Yaeyama Islands\*

沖縄本島：1♀，与那覇岳，3.Ⅶ.1974，入江採集

本種は，台湾のキンケクロハナノミ *M. ochrotricha* NOMURA に似るが小型であり，触角の構造，尾節板の形状などが異なり，上翅微毛の褐色もより淡色に見える。

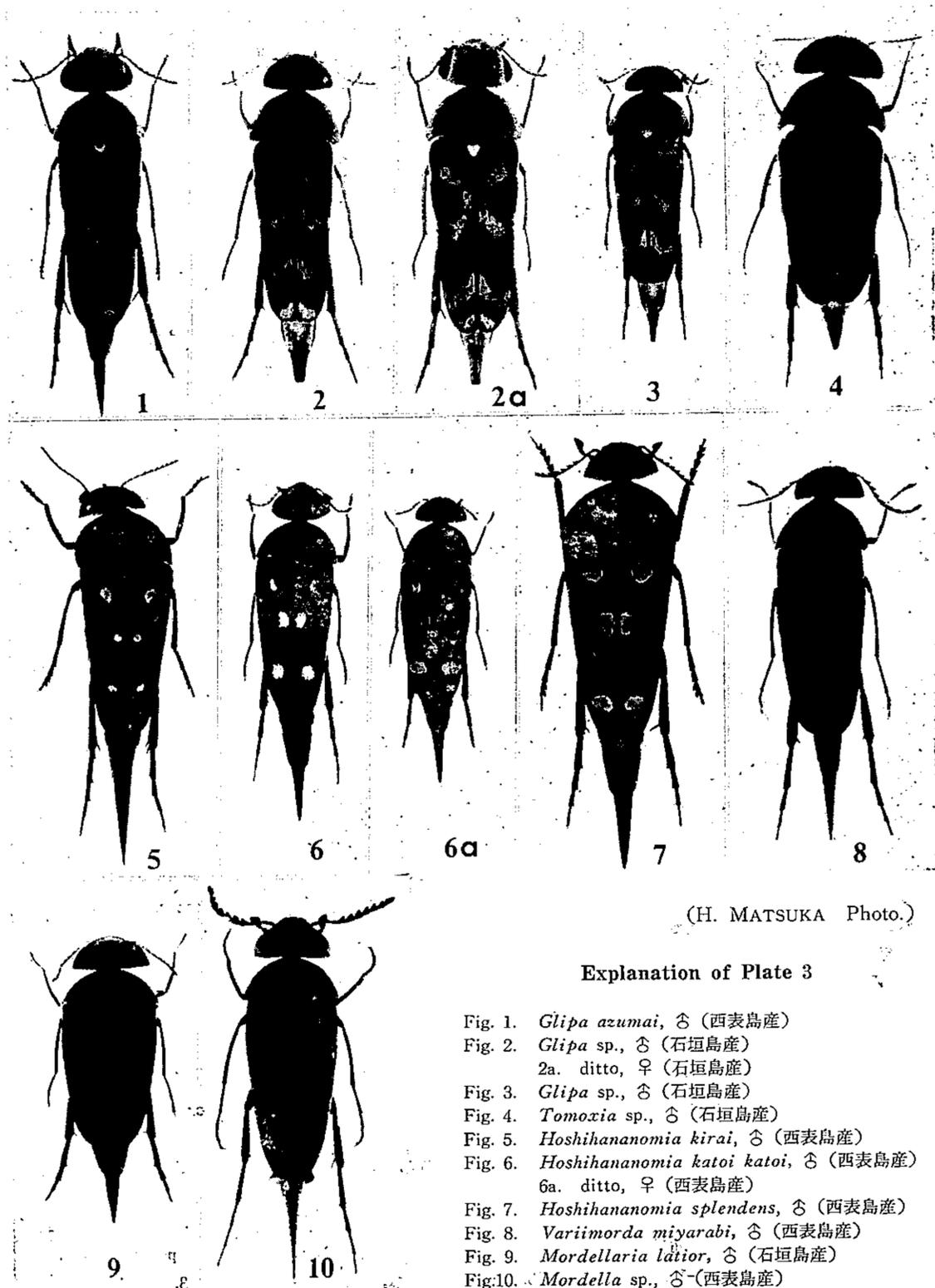
Summary

In this issue, the author describes 17 species of tribe Mordellini from Yaeyama Islands between Okinawa Is. and Formosa. Of these species 12 species are new records from Yaeyama Islands, and the localities with asterisk(\*) are new records.

引用文献

- 鹿野忠雄，1930, Kontyū, 4, p.205  
 KŌNO, H., 1932, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., 12, p.152  
 MIWA, Y., 1933, Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 23, p.10  
 野村 鎮，1963, 原色日本昆虫大図鑑Ⅱ, Mordellidae  
 NOMURA, S., 1966, Ent. Rev. Japan, 18, pp.41-53  
 高桑正敏，1972, 月刊むし, No.13, p.14

Plate 3



(H. MATSUKA Photo.)

Explanation of Plate 3

- Fig. 1. *Glipa azumai*, ♂ (西表島産)  
 Fig. 2. *Glipa* sp., ♂ (石垣島産)  
 2a. ditto, ♀ (石垣島産)  
 Fig. 3. *Glipa* sp., ♂ (石垣島産)  
 Fig. 4. *Tomoxia* sp., ♂ (石垣島産)  
 Fig. 5. *Hoshihananomia kirai*, ♂ (西表島産)  
 Fig. 6. *Hoshihananomia katoi katoi*, ♂ (西表島産)  
 6a. ditto, ♀ (西表島産)  
 Fig. 7. *Hoshihananomia splendens*, ♂ (西表島産)  
 Fig. 8. *Variimorda miyarabi*, ♂ (西表島産)  
 Fig. 9. *Mordellaria latior*, ♂ (石垣島産)  
 Fig. 10. *Mordella* sp., ♂ (西表島産)

Notes on the Longicorn Genus *Mesosa*  
Two New Species and Others from Nansei Islands of Japan

Keiichi KUSAMA<sup>1)</sup> and Heikichi IRIE<sup>2)</sup>

(Received and Accepted Oct. 30, 1975)

The authors wish to express their deep gratitude to Mr. Y. NOMURA (YAMAWAKI) for his useful advice and also to Messrs. J. KOMIYA, M. TAKAKUWA, T. KOBAYASHI and H. FUJITA for their kind help in obtaining the valuable specimens used in this study. Holotypes are deposited in the National Science Museum, Tokyo, and paratypes are in the authors' and the collectors' collections.

1. *Mesosa (Mesosa) atronotata*, sp. nov. (Fig. 1 a, b)

(Japanese name: Kuromon-gomafu-kamikiri)

Male—Integument pitchy brown, clothed with pale gray pubescence. Occiput mixed with tawny brown pubescence, antennae with pale gray long hairs at underside, but dark brown less pubescent portions of apical halves of third to eleventh joints with black hairs. Prothorax with patchy pattern of tawny brown and pale gray pubescence. Scutellum with tawny brown pubescence. Each elytron with two pairs of irregular black marking at basal one-fourth and apical one-third, three zigzag transverse tawny brown bands at just behind of two black markings and near apex, and many small dark brown spots scattered on all over elytron. Tibiae with two black parts at near basal and apical portions.

Head sparsely punctured, frons impunctured; inferior eye-lobe a little shorter than gena below it; vertex broadly concaved with a narrow median longitudinal furrow extending from frons to occiput. Antennae more than 1.4 times longer than body;

scape gradually broadened apically, almost as long as fourth; third longest; succeeding joints gradually shortened; apical portion of last joint steeply bent. Prothorax very sparsely punctured, weakly convexed laterally, with a small tubercle behind apex of each side; disk with three tubercles, two beside a median line at middle, one before scutellum. Elytra deeply and sparsely punctured at basal half and gradually shallower and sparser toward to apices, apically rounded.

Length: 11-16 mm. Breadth: 4-6.5 mm.

Female—Antennae a little longer than body, last joint of antennae straight no bending.

Length: 12-19 mm. Breadth: 4.5-8 mm.

Holotype, ♂, Is. Nakano-shima, Tokara Islands, 27 June 1973, leg. IRIE (Fig. 1a). Paratypes, 2♂♂, 3♀♀, the same data as the holotype (Fig. 1b).

Elytra pattern of this new species is much alike that of *M. (Perimesosa) pictipes miyamotoi* HAYASHI, 1956 (Is. Takara-jima in Tokara Islands), but it is easily distinguished that this new species has no erect hairs on elytra.

Present address:

- 1) Biological Institute, Faculty of Science, Shizuoka University, Shizuoka-city (〒422)
- 2) 3125, Ōaza-Umi, Umi-chō, Kasuya-gun, Fukuoka Pref. (〒811-21)

2. *Mesosa (Mesosa) praelongipes*, sp. nov. (Fig. 2a, b)

(Japanese name: Ashinaga-gomafu-kamikiri)

Male—Form moderately large, color black, suffused with black and tawny yellow pubescence. Basal halves of third, fourth, sixth, eighth, tenth and eleventh joints of antennae annulated with yellowish white pubescence, underside of antennae with hairs, white hairs at white portions and black hairs at black parts. Head with irregular four black stripes. Prothorax with more than ten irregular black markings on disk. Scutellum covered with yellow pubescence apically. Yellow pubescent pattern of elytra consisting of four interrupted zigzag bands at humeral, middle, one-fourth from apices and apical portions, and several irregular markings between bands. Legs clothed with yellow pubescence except apical parts of femora, bases, near bases and apices of tibiae, some portions of tarsi black.

Head sparsely punctate; lower lobes of eyes shorter than genae below them. Antennae about 1.5 times as long as body; scape gradually broadened posteriorly; relative length of joints as follows—7.0 : 1.0 : 9.0 : 6.0 : 4.2 : 4.0 : 3.4 : 3.2 : 3.0 : 2.8 : 1.8. Prothorax with large and sparse punctures, with a small tubercle on each side near anterior border; disk rather moderately convex with slightly raising areas beside center portion and near base. Elytra punctate largely and sparsely at basal portion. Legs elongate, apices of pro-femora attaining

a little beyond head, meta-femora reaching elytral apices. Abdomen long, about two-thirds of last sternite extending over elytral apices, ratio of length between each sternite as follows—2.5 : 1.0 : 1.0 : 1.2 : 2.5.

Length: 10.5-18 mm (exclusive of exposed abdominal sternite, that is 1.5-2 mm). Breadth: 3.5-8 mm.

Female—Antennae about 1.2 times longer than body, less than half of last abdominal sternite extending over of elytra, ratio of sternites—2.3 : 1.0 : 1.0 : 1.1 : 2.2.

Length: 12-16 mm (exclusive of exposed abdomen, 0.1-1.0 mm). Breadth: 5-6.5 mm.

Holotype, ♂, Bora, Gusukube-chō, Is. Miyakojima, South Ryukyu Islands, 28 May 1972, leg. IRIE (Fig. 2a). Paratypes, 2♂♂, 3♀♀, the same data as the holotype (Fig. 2b), 10♂♂, 10♀♀, Tomori, Is. Miyakojima, 14 June 1974, leg. M. TAKAKUWA 1♂, 1♀, the same place, 11 Apr. 1975, leg. KUSAMA.

This new species is closely allied to *M. (M.) yonaguni subkonoi* BREUNING\*, especially pattern of dorsal surface and antennal coloration are very similar, but the former is easily distinguished from the latter by the elongated legs and figure of abdomen (ratio of abdominal sternites of *M. yonaguni subkonoi*\*\*—3.2 : 1.0 : 1.0 : 1.1 : 1.8).

3. *Mesosa (Mesosa) yonaguni* HAYASHI, status nov.

(Japanese name: Yonaguni-gomafu-kamikiri)

*M. (Mesosa) cervinopicta* (FAIRMAIRE) subsp. *yonaguni* HAYASHI, 1962, Entom. Rev. Japan 15(1) : 5, pl. 1, fig. 5 (Is. Yonaguni, Yayeyama Islands).

*M. (Mesosa) cervinopicta yonaguni*: HAYASHI, 1962, ibid. 15(1) : 35; SAMUELSON, 1965, Pacific Ins. 7(1) : 100 (Yonaguni).

The authors conclude that this species has been misapplied to subspecies of *M. cervinopicta* (FAIRMAIRE), being different from the original, therefore they elevate the subspecies to the rank of species.

\* see No. 3' (p. 21)

\*\* 3♂♂, 2♀♀, The Subtropical Botanical Garden, Hirara-city, Is. Miyakojima, 13 June 1974, leg. M. TAKAKUWA.

3'. *Mesosa (Mesosa) yonaguni subkonoi* BREUNING, comb. nov. (Fig. 3a, b)\*

(Japanese name: Ishigaki-gomafu-kamikiri)

*M. (s.s.) subkonoi* BREUNING, 1964, Ent. Arb. Mus. Frey 15 : 91 (Ishigaki-shima, S. Ryukyu)

*Pachyosa cervinopicta*: (nec FAIRMAIRE) MIWA, 1933, Trans. Hist. Soc. Formosa 23 : 12 (Iriomote); MATSUSHITA, 1933, J. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 34 (2) : 344 (Miyako); MITONO, 1940, Cat. Col. Japonico. 8 : 159 (Miyako, Ishigaki, Iriomote, Yonakuni).

*M. (Saimia) cervinopicta*: (nec FAIRMAIRE) GRESSITT, 1951, Phil. J. Sci. 79(2) : 220 (Okinawa, Iriomote); HAYASHI, 1960, Entom. Rev. Japan 11(1) : 27 (Miyako, Ishigaki).

*M. (Mesosa) cervinopicta cervinopicta*: (nec

FAIRMAIRE) HAYASHI, 1962, Entom. Rev. Japan 15(1) : 35, pl. 4, fig. 3; SAMUELSON, 1965, Pacific Ins. 7(1) : 99 (Miyako, Ishigaki, Iriomote).

*M. (Mesosa) cervinopicta cervinopicta f. subkonoi* (nec BREUNING) HAYASHI, 1964, Entom. Rev. Japan 17 (2) : 70, fig. 1 (Ishigaki-jima, Hateruma-jima).

This species is once synonymized to a forma of *M. cervinopicta cervinopicta* (of HAYASHI, 1962, not FAIRMAIRE, 1897) by HAYASHI (1964), but it is a subspecies of *M. yonaguni* HAYASHI.

4. *Mesosa (Saimia) cervinopicta* (FAIRMAIRE) (Fig. 4a, b)

(Japanese new name: Munekobu-gomafu-kamikiri)

*Pachyosa cervinopicta* FAIRMAIRE, 1897, Bull. Soc. Ent. Fr.: 71 (Ishigaki-Sima).

*Mesosa (Saimia) cervinopicta*; BREUNING, 1939, Nov. Ent. Suppl. 3(52) : 415; BREUNING, 1959, Cat. Lam. Monde (2) : 53.

As this species has been misidentified for long times in Japan, the authors redescribe here.

Body black, densely clothed with fine black pubescence. Head, prothorax, legs and underside of body decorated with scattered yellow pubescent markings. Basal parts of third to eleventh antennal segments annulated with white pubescence and underside with white long hairs, apical black parts with long black hairs underside. Elytra with four dilacerated yellow pubescent transverse bands at base, middle, one-fourth from apices and apical margins of elytra, some parts of yellow bands mixed with darker hairs.

Head sparsely punctate, broadly concaved between antennal insertions, vertex with a median longitudinal furrow, inferior eye lobes about two-thirds of remaining genal portions. Antennae more than 1.7 times longer than body for male (female

1.3 times longer), scape gradually thickened apically, as long as fourth; third longest, slightly longer than fourth but distinctly longer than fifth; following segments gradually shortened, last segment suddenly bent apically for male (female straight). Prothorax very sparsely punctate, with a small lateral tubercle behind apex of each side, disk with three tubercles distinct and round, front two tubercles at middle, between them with plicate, near one on a median line near basal margin. Elytra rather sparsely and coarsely punctate, apical one-third very weakly punctate.

Materials examined—Is. Ishigaki-jima, 3♂♂, 3♀♀, Yoshihara—Yonehara, 17 June 1972, leg. IRIE (Fig. 4a, b), 6♂♂, 6♀♀, Yonehara, 15-17 June 1973, leg. J. KOMIYA, 1♂, Arakawa, 16 June 1973, leg. T. KOBAYASHI; Is. Iriomote-jima, 3♂♂, 2♀♀, Hidori, 2 June 1974, leg. M. TAKAKUWA, 1♂, Hidori, 2 Apr. 1975, leg. KUSAMA.

Examined specimens completely agree with the description of FAIRMAIRE that "antennis articulis 3-11 basi albido pubescentibus", and "prothorace... medio leviter plicatulo, bituberoso, basi medio paulo tuberoso".

\* 1♂, 1♀, The Subtropic Botanical Garden, Hiraracity, Is. Miyako-jima, 10 Apr. 1974, leg. H. FUJITA.

摘 要

(1) 新種 *M. (Mesosa) atronotata* (クロモンゴマフカミキリ) (吐噏喇列島中之島産) の記載。

(Fig. 1a, b)

宝島原産のオキナワゴマフカミキリ亜種 *miyamotoi* (*Perimesosa* 亜属) に斑紋は類似するが、鞘翅に直立の剛毛を欠き (*Mesosa* 亜属), 雄の触角の末端節先半が急に曲っているので区別し得る。

(2) 新種 *M. (Mesosa) praelongipes* (アシナガゴマフカミキリ) (先島諸島宮古島産) の記載。

(Fig. 2a, b)

従来、和名でインガキゴマフカミキリと言っていた種にそっくりの斑紋を有するが、肢が長く、特に雄において腹部の先端が鞘翅の末端から露出している点が異なる。

(3) *M. (M.) yonaguni yonaguni* HAYASHI

(ヨナグニゴマフカミキリ)

亜種より種に昇格。

(3') *M. (M.) yonaguni subkonoi* BREUNING

(インガキゴマフカミキリ) (Fig. 3a, b)

*subkonoi* はかつて *cervinopicta* の 1 型としてシノニムにされたが、上記種の亜種で、和名はそのままにしておき、学名を変更した。

(4) *M. (Saimia) cervinopicta* (FAIRMAIRE)

(和名新称, ムネコブゴマフカミキリ) (先島諸島石垣島・西表島産) (Fig. 4a, b)

FAIRMAIRE の原記載以来約 80 年、日本ではこの学名を誤った種 (和名のインガキゴマフカミキリ) に当てていたので再記載した。触角の 3~11 節の基部が白色で、前胸背板に顕著な 3 個の隆起があるので、*M. (M.) yonagunisubkonoi* と容易に区別できる。

Explanation of Plate 4 (p. 23)

Fig. 1 a *Mesosa (Mesosa) atronotata*, sp. nov., ♂, holotype.

Fig. 1 b ditto, ♀, paratype.

Fig. 2 a *Mesosa (Mesosa) praelongipes*, sp. nov., ♂, holotype.

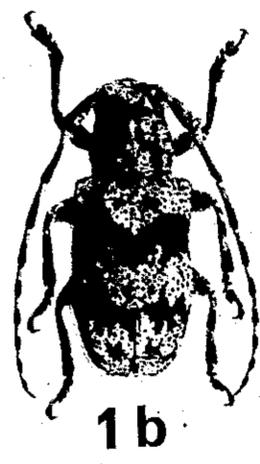
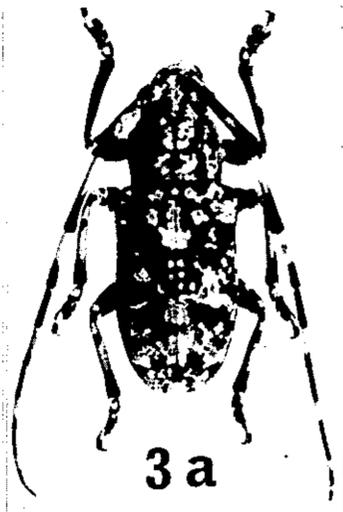
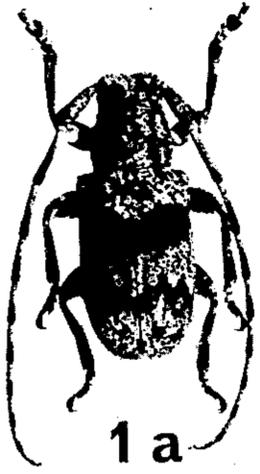
Fig. 2 b ditto, ♀, paratype.

Fig. 3 a *Mesosa (Mesosa) yonaguni subkonoi* BREUNING, ♂ (Is. Miyako-jima).

Fig. 3 b ditto, ♀ (Is. Miyako-jima).

Fig. 4 a *Mesosa (Saimia) cervinopicta* (FAIRMAIRE), ♂ (Is. Ishigaki-jima).

Fig. 4 b ditto, ♀ (Is. Ishigaki-jima).



(M. TAKAKUWA Photo)

# 稿 KŌCHŪ 虫

伊豆諸島三宅島にヒラタクワガタ産す

市川 敏之

ヒラタクワガタ *Serrog-nathus titanus pilifer* S. VAN VOLLENHOVEN は伊豆諸島では大島・利島・新島から記録されているが、筆者は三宅島で採集された個体を採集者の川田一之氏から恵与頂いたので同島初記録として報告する。

1♂, 三宅島大池, 14. VII. 1975, 川田一之採集

なお、同島からは同種以外にミクラミヤマ? \*・ノコギリ・コ・スジ・ネプト・マメ・チビの7種のクワガタムンが記録されている。

\*) 久保快哉, 西山保典 (1967), 三宅島・神津島を訪ねて, INSECT MAGAZINE No. 66, p.10

(㊤114 北区王子本町2-1-17)

北海道利尻島のマグソコガネ2種

石田 正明

昨夏、娘が北海道旅行で利尻島にいった時、数種の甲虫を採ってきたが、その中にマグソコガネが2種4頭あった。いずれも、いままではっきりと記録されていない種と思われるので、ここに記録しておきたい。

採集データはすべて同じで、下記のとおりである。

採集地：北海道利尻島小黒牧場

採集日付：1975年8月28日 採集者：石田ひろみ

1. *Aphodius (Otophorus) haemorrhoidalis* (LINNÉ) ツマベニマグソコガネ

1♂, 体長5mm, 鞘翅の肩部および両翅端は赤褐色, 他は黒色。ab. *sanguinolentus* (HERBST) にあたるものである。牛糞より得た。

2. *Aphodius (Bodilus) sordidus* (FABRICIUS)

ヨツボシマグソコガネ

2♂♂, 体長8mmと7mm, 1♀, 体長7mm, いずれも上翅は肩部と中央後に暗色紋をそなえるが、その発達は悪い。一見したところ原型に近いように見える

が, ab. *quadripunctatus* (PANZER) に同定すべきものであろう。牛糞より得られた。

上記2種はともにアジア大陸北部からヨーロッパにかけてひろく分布する地方型のマグソコガネで、もちろん北海道本島に産することはすでに知られている。したがって、利尻島に産することは当然のことであろう。なお、利尻島の北に位置する礼文島にも牧場があるそうであるから、礼文島にも産することは予想される。

(㊤168 杉並区宮前3-23-5)

セマルオオマグソコガネ対馬の記録

小幡 幸正

セマルオオマグソコガネ *Aphodius brachysomus* SOLSKY は比較的少ない種で、分布は北海道・本州・佐渡・九州・トカラ宝島および朝鮮・東シベリア・支那と広いが、対馬における記録はまだないようなのでここに発表する。

1 ex. (死骸), 北対馬内山牧場, 27. IV. 1974

1日ほどたった牛糞のわきにころがっていた個体で、ひどく破損していた。また、この個体は上翅端に黄斑の出ている型であった。この内山牧場は最近新しくできたものらしいが、他にヒメダイコク・エゾマグソ・スバタママグソ・ウスイロマグソ・マグソコガネ・カドマルエンマなど個体数は多く見られた。

(㊤151 渋谷区千駄ヶ谷3-13-12)

ヤクルリセンチコガネ大川林道に多産

藤田 宏

ヤクルリセンチコガネ *Geotrupes (Phelotrupes) auratus yaku* TSUKAMOTO は屋久島特産の亜種で、小杉谷が産地として知られるが、採集例は少なく稀な種とされている。

筆者は1974年夏期に屋久島を訪れた際、下屋久町大川林道にて本種を採集しているので記録しておきたい。

3♂♂ 2♀♀, 屋久島下屋久町大川林道,

30. VII~7. VII. 1974, 藤田宏採集

同地、大川林道は近年クロモンキイロイエ・オガサワラチャイロ等をはじめとするカミキリムシの珍種を多産することで有名となり、この時もかなり多勢のカミキリ屋が同林道を7~8km程登った地点に参集していた。ヤクルリセンチコガネはこれら同地で寝泊りしている採集者の人糞に多く見られた。もとよりカミキリ屋ばかりなので他の糞が見つかるはずもないが、朝 (AM 8:00~9:00) 用をたすと、昼近くにはヤクルリセンチコガネが次々と飛来してきた。特に注意して採っていたわけではないので、専念すればかなり多く採集できるもので

はないかと思われる。(この時は他の採集者と合わせ10数頭が得られた)

今まで採集例が少なかったのは中～高地帯で狙っていたためではないだろうか。大川林道の採集地点は標高300～400mのタブ・シイ等を主とした低山帯である。

カミキリ屋ばかりであったため、誰も採集していなかったが他にも非常に多数の *Onthophagus* 類をはじめ糞虫が多く、朝の人糞は夕方にはほぼ分解しつくされてしまうほどであった。ヤクルリセンチばかりでなく糞虫一般にかなり好適な地と思われるので、糞虫に興味のある方で、今後屋久島を訪れる方にはぜひとも立ち寄って、本格的な調査をしていただきたいものである。

末文ながら本種の分類上の位置等について色々御教示下さった石田正明氏に感謝したい。なお、標本は石田正明・長尾悟・小幡幸正の各氏が保管されている。

(㊤110 台東区台東2-29-6)

#### 四国のムツコブスジコガネの記録

長尾 悟

*Trox mutsuensis* NOMURA ムツコブスジコガネは、原産地(青森県恐山)とその後北海道札幌市円山公園の記録が知られるだけで、筆者は先に *New Insect Vol. 18, No. 2* に長野県下の採集例を報告したが、その際に四国における記録があると言及した。ここに本種の新分布地として四国を加えたい。

1 ex., 徳島県剣山見の越, 31. Ⅶ. 1972, 長尾悟採集  
灯火に飛来していたものである。

なお、本稿を書くにあたりお世話になった三宅義一先生に深く感謝の意を表す。

(㊤162 新宿区南榎町5 南榎町アパート57号)

#### オオダイセマダラコガネ福井県冠山に産す

佐々治寛之

オオダイセマダラコガネ *Blitopertha ohdaiensis* SAWADA は従来本州紀伊半島山地、四国石鎚山、九州英彦山・祖母山・霧島山に限って分布し、あたかも地史と深い関連をもつかのように思われたが、最近、兵庫県扇の山からも報告され、同定誤りでなければ大変興味深いことと思っていた。ところが、黒川秀吉氏(福井市森田中学校教諭)から同定を依頼された昆虫標本の中に福



井県産の本種を見出したので報告する。データは次のとおりである。

福井県冠山, 5~6. Ⅷ. 1974, 黒川秀吉採集

(佐々治保存)

冠山は福井県今立郡池田町と岐阜県揖斐郡徳山村との県境稜線に位置し、頂上標高1257mで、採集したのは池田町田代から頂上への登山路であるが、途中、多くのセマダラコガネを採ったので、こまかな位置は不確かとの由である。

なお、近縁の普通種であるセマダラコガネは衆知のように色彩や大きさの変異が著しく、中には図鑑に示されたオオダイセマダラとそっくりのものもあり、しばしば誤同定されるが、上記の標本はまぎれもなく本物のオオダイで、九州祖母山の多数の標本と比較しても差は見出せない。最後に発表と標本保管を委ねられた黒川氏の御好意にお礼申し上げる。

(㊤910 福井市文京3 福井大学教育学部生物学教室)

#### ナガヒラタムシ属2種の分布記録

長尾 悟

筆者の手許のナガヒラタムシ属の標本を調べてみたところ、次の2種について報告すべき分布記録があった。

##### *Cupes clathratus* SOLSKY ナガヒラタムシ

本種は、Vladivostok (ウラジオストック) 原産であり、本邦においては北海道から九州まで分布するようだが、島嶼部における分布記録は少ないようである。筆者は、伊豆諸島御蔵島で本種を採集している。

1 ♂, 東京都御蔵島村里, 17. Ⅶ. 1973, 筆者採集

##### *C. japonicus* TAMANUKI ヒメナガヒラタムシ

本種については、中根(1973)\*が本州(紀伊半島)・四国を分布地としている。原産地は伊予笹山(愛媛)で ATKINS の Mt. Hakkoda (八甲田山?) の記録もあるようだ。筆者の手許には、木村欣二氏よりいただいた伊豆半島の標本がある。貴重な標本を下さった感謝の意もこめてここにデータを公表しておく。

1 ♂, 静岡県伊豆半島猫越, 16. Ⅶ. 1967, 木村欣二採集(両種とも標本は筆者が保管)

なお、日本のナガヒラタムシ科は他に南西諸島で以前より得られていた *Cupes* sp. と別にもう1種九州で *Cupes* sp. が採れているようなので、今のところ4種類は産するといえよう。

\*) 中根猛彦, 1973:「新シリーズ, 日本の甲虫」1, 昆虫と自然8(9), 2~3

(㊤162 新宿区南榎町5 南榎町アパート57号)

伊豆諸島におけるモンハナノミの採集例

高桑 正敏

伊豆諸島からは従来、モンハナノミ属の記録はなかったが、三宅島と御蔵島からモンハナノミ *Tomoxia nipponica* KÖNO が採集されたのでここに報告する。

- 1♂, 御蔵島川田, 23. VII. 1974, 下村徹採集
  - 2♂♂, 三宅島大路池, 25. VII. 1975, 藤田宏採集
- 標本はいずれも筆者が保管。

本種はブナ帯に少なくない種で、離島では屋久島(中腹部)から採集されている。伊豆諸島産上記3♂は、本州ブナ帯の♂と比較すると体型が後方に向かってはるかに狭まり、前附節は著しく短く、中附節は逆に長く、ゲニタリアも少々異なり、四国以西の個体により近い。

(☎236 横浜市金沢区六浦町3577)

ヤエヤマムナビロタマムシ与那国島の記録

秋山 黄洋



ヤエヤマムナビロタマムシ *Sambus aenicollis* FISHER, 1921はフィリピン島のルソンより記載された種類で、日本に産することは黒沢良彦博士が石垣島産の標本に基づいて、甲虫ニュース No. 11, p.4 (1970) に報告している。筆者は入江平吉氏の御好意により、与那国島の本種を検したので報告したい。

29exs., 与那国島所野,  
9. V. 1974, 入江平吉採集:

- 11exs., 同上, 13. V. 1974, 同上
- (☎235-02 横浜市磯子区坂下町1-43)

天草諸島下島のタマムシ3種

藤田 宏

熊本県天草郡天草諸島におけるタマムシ科甲虫の報告は今までに知られていないようであるが、筆者は1973年夏期に同島を訪れた宮原道則氏より下記の3種のタマムシを頂いているので、記録しておきたい。

1. カラカネクリタマムシ

*Toxoscelus sasakii* Y. KUROSAWA

1ex., 天草下島頭岳, 1. VII. 1973

本種は全体唐金色の *Toxoscelus* で、1957年鹿児島県霧島山栗野岳における1♂を基に記載されたが、その後は同県佐多岬での1例を聞く程度で、きわめて稀な種

と思われる。(写真左)

2. カラカネナカボソタマムシ

*Coraebus ignotus* E. SAUNDERS

9exs., 天草下島角山, 31. VII. 1973

九州本土産の個体と比べて差異はなく、原亜種に含まれるものと思う。(写真右)



3. クズノチビタマムシ

*Trachys auricollis* E. SAUNDERS

1ex., 天草下島角山, 31. VII. 1973

(☎110 台東区台東2-29-6)

オキナワナカボソタマムシの初見記録

藤田 宏

オキナワナカボソタマムシ *Coraebus loochooensis* KANO は、日本産の *Coraebus* ではシリグロナカボソタマムシと並んで最も大型の種で、全身がコバルトブルーに輝く美麗種である。本種は1929年、沖縄本島における1♀(データ不明)\*を基に記載されたが、原記載以降は1962年同島伊豆味における1♀が追加されただけで、近年多数の採集者の訪島にもかかわらずまったく採集されていないようである。

筆者は1975年6月、同島を訪れた深町宗通氏の採集品より本種の♂を見出したのでここに報告しておく。実に原記載以来45年目にして得られたこの♂が、本種♂の初見となるわけである。

1♂, 沖縄本島国頭郡与那覇岳, 5. VII. 1975

深町宗通採集(藤田宏保管)

♂は♀に比べるとかなり小型で体長11.5mm程。体型は♀より細く、上翅の白紋も薄い。

採集者の深町氏によれば、この個体は与那覇岳中腹の伐採地で、オシマヤハズ・オキナワフト・スジシロなどのカミキリがよく集まるひこばえの葉上に静止していたものだという事である。樹種は不明だが、ホソバタ

ブによく似た植物であったという。

末文ながら、貴重な標本を恵与された深町宗通氏、本種の♀を検査する機会を与えて下さった黒沢良彦博士に感謝したい。

\*) 模式標本には種名を示すラベルが一枚あるだけで、産地、日付を示すラベルはまったく付いていない。(黒沢良彦, 1970, 日本産タマムシ科解説9, 甲虫ニュース No.11より)

(㊤110 台東区台東2-29-6)

### 札幌におけるシリグロナカボソタマムシの記録 安井 正

シリグロナカボソタマムシ *Coraebus kiangsuanus nigromaculatus* Y. KUROSAWA は、現在までの採集例は数例しかないと聞いているが、筆者は1972年に札幌で1♀を採集したので報告しておきたい。今までは本州からのみ採集されており、今回の記録は北海道初記録と思われる。



1♀, 札幌市円山, 13. Ⅷ. 1972,  
安井正採集

円山動物園の北側を通過して、菴井山にいたる途中にある「宮が丘ユースホテル」前の側溝に落ちていたものを得た。この付近の道路は札幌オリンピックのために整備されたもので、その当時に側溝と水銀燈がつけられた。

なお、この側溝では本種と同時にエゾアカガネオサムシ(多数)・セダカオサムシ(2♀♀)・オオルリオサムシ(1♂1♀)・ヤハズカミキリ(1♂)などが採集された。

このシリグロナカボソタマムシの標本は現在、北海道大学農学部・応用昆虫学教室に保管されている。

(㊤065 札幌市北区北26条西6)

### オオウグイスナガタマムシの東限記録

藤田 宏

オオウグイスナガタマムシ *Agrilus asiaticus igai*



Y. KUROSAWA は本州・九州・対馬より記録されており、本州においては主に関西以西で得られている。東限は長野県伊那谷とされている\*が、筆者は東京都下産の標本を所持しているので記録しておきたい。

Iex., 東京都下町田市鶴川,

9. Ⅷ. 1972, 小倉直樹採集

\*) 黒沢良彦(1974): 日本産タマムシ科概説(10), 甲虫ニュース Nos. 17-18

(㊤110 台東区台東2-29-6)



### 小笠原父島における

### アカアシハナコメツキの採集例

鈴木 亘

アカアシハナコメツキ *Dicronychus (Platynychus) adjutor* (CANDEZE) は、本州・四国・九州・琉球・台湾・朝鮮などに分布するが、あまり多い種ではないようである。小笠原父島における本種の記録は、VAN ZWALUWENBURG (1957)\* に未同定のものとして報告されているだけで、その後の報告はない。しかし筆者は幸いにも父島で採集された本種を検査することができたので、ここに報告しておく。

1♀, 父島三日月山,

30. Ⅴ. 1975, 藤田宏採集

末筆ながらこの発表にあたり色々とお教示頂いた大平仁夫博士、ならびに貴重な標本を恵与された藤田宏氏に深く感謝する。

\*) VAN ZWALUWENBURG, R. H. (1957) Insects of Micronesia (Coleoptera: Elateridae), Ins. Micronesia, 16(1): 62-63.

(㊤156 世田谷区桜3-14-13)

### 沖縄本島でイリエシラホシ

### サビカミキリを採集

酒井 案理

イリエシラホシサビカミキリ *Mycerinopsis (Zotale)*

*apomecynoides* HAYASHI は最近、林匡夫博士により記載された種で現在、同属の北限種とされている。本種は原産地である奄美大島のみで得られていたようであるが、筆者は1973年、春期および夏期に沖縄本島を訪れた際、本種を採集しているので報告する。

- 1♂, 沖縄本島与那覇岳, 12.Ⅳ.1973, 酒井案理採集  
 1♂, 同上, 9.Ⅶ.1973, 同上  
 1♂は枯枝(樹種不明), 1♀はシマサルナシの古い枯づるのピーティングによる。

なお、奄美産の個体と比べても特に差異はないようである。

(㊗177 練馬区関町1-125)

### ニイタカハナカミキリの食樹について

秋葉 孝雄

ニイタカハナカミキリ *Anoplodera dissimilis*(FA-IRMAIRE) の食樹がリュウキュウマツではないかという予想は以前からあったが、それに関する報告はまだないようである。筆者は、リュウキュウマツ *Pinus luchuensis* MAYR の立枯中から本種成虫を採集しているので報告する。

5♂♂4♀♀, 奄美大島朝仁, 11.Ⅳ.1975

この立枯れは直径10cm程で比較的古いものであった。

(㊗345 北葛飾郡杉戸町清地2-17-2)

### 3月下旬・トカラ列島宝島のカミキリ

内野 晃

私は1975年3月23~28日、宝島に滞在したが、その間に得られたカミキリムシのリストを報告する。

#### 1. ワモンサビカミキリ

*Pterolophia annulata* (CHEVROLAT)

1♂, 24.Ⅲ.1975: 3♂♂1♀, 27.Ⅲ.1975

#### 2. オビレカミキリ

*Euseboides matsudai* GRESSITT

4♂♂1♀, 27.Ⅲ.1975

#### 3. オキナワサビカミキリ

*Diboma costata* (MATSUSHITA)

2♂♂1♀, 27.Ⅲ.1975

#### 4. アヤモンチビカミキリ

*Sybra ordinata tokara* HAYASHI

1♂, 24.Ⅲ.1975: 1♂, 27.Ⅲ.1975

#### 5. オオシマウスアヤカミキリ

*Bumetopia japonica oshimana* BREUNING

1♀, 26.Ⅲ.1975

オキナワサビカミキリとオビレカミキリはトカラ列島初記録と思われる。タブ・クスノキ・ヤブニッケイの枯枝および枯れづるの beating で得た。

(㊗812 福岡市東区箱崎3-13-9 松井輝久方)

### 西表島初記録のカミキリ4種

矢野 立志

沖縄県西表島にて、同島より未記録であったと思われるカミキリ4種を採集することができたので、ここに報告する。

#### 1. インガキトゲウスバカミキリ\*

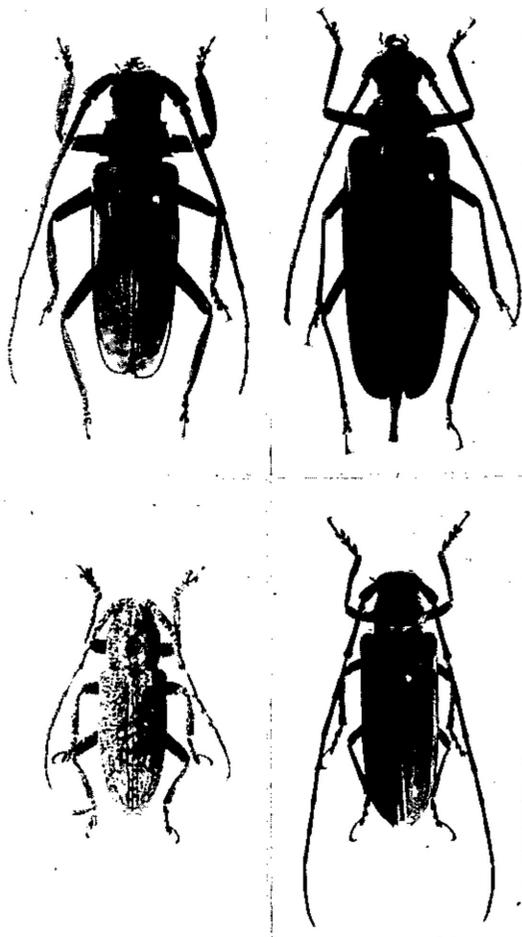
*Megopis (Spinimegopis) buckleyi ishigakiana*  
 YOSHINAGA et NAKAYAMA

1♂, 西表島白浜, 4.Ⅶ.1975

白浜部落内の燈火(60W程度の白熱電球)に飛来したものを採集。採集時は気温24.5°Cで、湿度はかなり高いように思われた。(写真左上)

#### 2. フトヒゲウスバカミキリ

*Megopis sinica validicornis* GRESSITT



1 ♀, 西表島白浜, 7. V. 1975

1 ♂, 同上, 8. V. 1975

いずれも前種と同じ燈火で得た。(写真右上)

### 3. *Pterolophia* sp.

1 ex., 西表島白浜, 4. V. 1975

3 exs., 同上, 9. V. 1975

主に枯スキのビーティングにより得られた。既に石垣島平久保に産することが知られているが、西表島からの記録はなかった。(写真左下) 台湾に近縁な種が産する。

### 4. *Apriona* sp.

1 ♂, 西表島白浜, 8. V. 1975

白浜部落の街燈にきたものを得た。水沼哲郎氏により石垣島に産することが報告されて以来、同島バンナ岳における燈火で比較的採集されているようであるが、西表島からは未記録であった。西表島産の個体は石垣島のものと比較すると、上翅基部の顆粒が小さく少ない(50個以下)、触角がやや長い、翅端内角のトゲが長い等の点で異なっている。(写真右下)

\* 実は、栗林・高良・東(1973, 沖縄の昆虫, 学習研究社)に本種が西表島に分布するとされているが、これは出現時期などから考えても明らかにコゲチャトゲフチオオウスバカミキリ *Macrotoma (Bandar) fisheri obscuribrunnea* HAYASHI の誤同定によるものと思われ、今回の記録が西表島からの最初の正しい報告であろう。

(㊦734 広島市皆実町1-18-40)

### 福島県松枝岐で

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集

川田 一之

福島県松枝岐で採集を行なった際、ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus nitidus* OBIKA を採集した。

本種は既に東日本からは新潟県姫川谷・埼玉県秩父・東京都奥多摩・長野県伊那戸台の4ヶ所で記録されているが、同県下における採集例はまだ聞かないので報告しておきたい。

1 ♀, 福島県南会津郡松枝岐村, 9. VII. 1975,

川田一之採集

日当たりのよい、よくカミキリムシの集まっているミズキの花上で得た。なお、松枝岐といってもかなり内川方面(伊南方面)へ寄ったところであった。

(㊦164 中野区東中野5-20-13)

### トカラ列島諏訪瀬島・悪石島

のカミキリについて

藤田 宏

交通の不便なため、従来採集者のほとんど訪れなかったトカラ列島中、近年中之島においては比較的訪れる者も多く、そのカミキリ相もまとめられつつあるが、他の島における報告はまだきわめて少ない。筆者は同列島諏訪瀬島および悪石島において今西修氏が採集されたカミキリを所持しているの以下、当然分布が予想される種がほとんどであるが参考資料としてここに記録しておくたい。

#### 1. チャイロヒメカミキリ

*Ceresium simile* GAHAN

1 ♂, 諏訪瀬島, 2. VII. 1973; 1 ♂ 5 ♀, 悪石島, 5. VII. 1973

#### 2. ヨコヤマヒメカミキリ

*Ceresium holophaeum* BATES

3 ♂ 2 ♀, 悪石島, 5. VII. 1973

#### 3. コウノゴマフカミキリ

*Mesosa (Mesosa) konoi* HAYASHI

1 ♂ 2 ♀, 悪石島, 5. VII. 1973

本種は同列島(中之島・口之島)の他、奄美大島・沖永良部島・沖縄本島に分布するが、産地によって上翅斑紋の変化が著しく、それぞれ別亜種として分類され、同列島のものはその原亜種とされている。

今回、悪石島で採集された個体は写真の示すように

中之島産のものとは若干上翅の斑紋が異なる。すなわち中之島(原産地)のものが上翅中央の白帯が強く、その前後の黒い部分(焦げ茶色の微毛が密布している)が多いことにより、一見してそれとわかる特徴を備えているのに対し、悪石島のは白帯の部分が比較的不明瞭で、また黒い部分も少なく上翅の色彩的な区分は安定していない。トカラ列島の原亜種と沖縄亜種とは上翅斑紋がかなり安定しており、その中間地区では変化にとむとされているが、同一の列島内においても地理的に奄美大島・沖永良部島に近い分だけ、その斑紋も変化してくる(似てくる)ということは本種がいかに特化しやすい種であるかを示しているようで面白い。



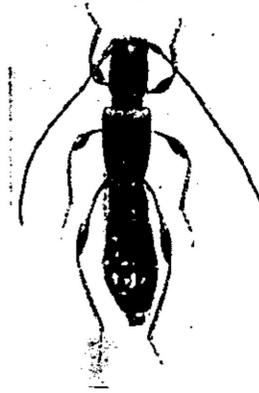
4. オオシマウスアヤカミキリ  
*Bumetopia oshimana* BREUNING  
 5♂♂2♀♀, 諏訪瀬島, 2. Ⅷ. 1973: 3♂♂6♀♀, 悪石島, 5. Ⅷ. 1973
5. アトモンチビカミキリ (奄美亜種)  
*Sybra baculina oshimana* BREUNING  
 4♂♂1♀, 諏訪瀬島, 2. Ⅷ. 1973
6. サビアヤカミキリ (奄美亜種)  
*Abryna obscura oshimensis* (BREUNING)  
 1♂4♀♀, 諏訪瀬島, 2. Ⅷ. 1973: 1♂2♀♀, 悪石島, 5. Ⅷ. 1973
7. ワモンサビカミキリ  
*Pterolophia (Hylobrotus) annulata*  
 (CHEVROLAT)  
 1♂, 悪石島, 5. Ⅷ. 1973
8. キボンカミキリ (トカラ亜種)  
*Psacotheta hilaris macronotata* HAYASHI  
 1♂, 諏訪瀬島, 2. Ⅷ. 1973  
 中之島産の個体と比べて特に変異はない。
9. コゲチャサビカミキリ  
*Mimectatina meridiana* (MATSUSHITA)  
 2♀♀, 諏訪瀬島, 2. Ⅷ. 1973  
 (㊤110 台東区台東2-29-6)

徳島県剣山における興味深いカミキリ2種

鎌田 保生

筆者は徳島県剣山において、興味深いと思われる下記2種のカミキリを採集しているので報告しておく。

1. クロサワヒメコバネカミキリ  
*Epania septentrionalis* HAYASHI  
 1♀, 8. Ⅶ. 1973, 筆者採集  
 夫婦池より下山中, 登山道沿いの広葉樹の伐採木にて採集。伐採木の1本に止ってハネカクンがするように羽根の手入れをしていた。
2. ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ  
*Molorchus (Linomius) nitidus* OBIKA  
 既に本州・九州・対馬より記録されているが, 四国からの記録は未だなかったものと思われる。(写真)  
 1♀, 4. Ⅴ. 1975, 筆者採集  
 1♀, 5. Ⅴ. 1975, 〃  
 1♀, 11. Ⅴ. 1975, 〃 (小笠原隆保管)
- 5月4日(小雨)  
 小雨の合間に陽がさした折, 貞光~見の越方面のドライブウェイ沿いのカエデ花上より採集。
- 5月5日(晴)  
 劍橋から八面山方面へ少し入った谷川沿いのカエデ花



こでも採れるのではないかと思われる。  
 (㊤771-02 板野郡北島町高房川の上8 邦レ西社宅38号)

上にて採集。他にピックニセハムシバナなどが多かった。

5月11日(くもり)

この日は梅雨を思わせる天気の上肌寒く, 前回のカエデをすくってもカミキリはほとんど入らなかったが, そんな中でポツリと採れた。

以上のように剣山においては低山帯であればど

三宅島でセンノカミキリを採集

神尾 俊夫

1975年6月20日から24日の間に三宅島で採集を行なった際, センノカミキリ *Acalolepta luxuriosa* (BATES) を採集したので報告する。

- 1♂, 三宅島三池,  
 20. Ⅶ. 1975, 神尾俊夫採集  
 1♀, 同上,  
 23. Ⅶ. 1975, 同上

本種は伊豆諸島においては既に新島・御蔵島・八丈島から記録されているが, 同島からは未記録と思われる。

なお, この三宅島産の個体は御蔵島・八丈島で得られているものと同じく, 他地域のものに比べてかなり黒化の傾向を示している。

(㊤330 大宮市宮原町 4-17-8)



ケヤキの樹幹に集まる

オニホソコバネカミキリ

鈴木 恭一

オニホソコバネカミキリ *Necydalis (Necydalis) gigantea* KANO は本邦産の *Necydalis* の中でもクワに寄生するという特異な生態, その局所的な分布でよく

知られている。本種は関東地方においては奥日光が産地として有名であるが、他では東京都下奥多摩日原での1♀の記録がある\*のみにすぎなく、その後は都下奥多摩の御岳山で1971年、郷直樹氏により路上を歩行中の1♂1♀が採集されていると聞く。筆者は同じく御岳山にて友人と計14頭の本種を採集したが、その際に非常に興味深い観察をしているので報告しておきたい。

筆者らは1973年から1975年までの3年間にわたって御岳山において本種を採集・観察したが、同地における本種はすべて直径2mほどの巨大なケヤキに飛来した。オニホソコバネの飛来するケヤキはただ1本で、ケーブルカー山頂駅と御岳神社の中間にある“神代ケヤキ”と呼ばれている巨木である。このケヤキには地上3mほどのところに、おそらく台風で太い枝が折られたと思われるところがあり、その付け根にあたる場所の、材質が腐触しているような部分にオニホソコバネは飛来した。この木の周辺で枝先などを飛び回っている個体もよく見られるが、最終的にはその部分にやってくるようであった。

ここで興味深いのは、このケヤキにオニホソコバネのやってくる時間が早朝6:00から7:00の間に限られること、および採集された個体のすべてが♂であったことである。早朝のみに限って飛来することは、今までこのような観察がされなかった一因とも考えられるが、飛来してきた個体のすべて（ただし、他にも多くの個体を目撃しているが、それらの性別はわからない）が♂であったことはなんとも説明がつきにくい。奥日光大沢ではクワの古木の仮死部に本種♀が止り、産卵と思われる行動をしているものを見ることができ、この場合は早に限られ、♂はクワの葉上に静止しているか、または付近を飛び回っているのである。もしオニホソコバネがケヤキをも食害するとすれば（そのために飛来しているとすれば）早ばかりならともかく、すべて♂というのは合点がいかない。

以上、まだオニホソコバネがケヤキを食するかどうかの結論はでないが、可能性は充分にあるのではないかと推察される。今までオニホソコバネといえば、クワというイメージがあまりにも強かったが、今後、ケヤキにも目をむけ、新しい生態が確認されることを期待したい。

#### 採集記録

2♂♂, 1.Ⅷ.1973, 樋村慎一・小沼孝行採集

8♂♂, 1.Ⅷ.1974, 加藤源喜・小沼孝行・

鈴木恭一採集

1♂, 3.Ⅷ.1974, 小沼孝行採集

3♂♂, 31.Ⅶ.1975, 加藤源喜・鈴木恭一採集

\*) 昆野安彦(1971), 月刊むし9号, p.33

(☎180 武蔵野市吉祥寺東町3-10-13)

### 宮古島でツヤケシヒゲナガ

#### コバネカミキリを採集

齋藤 秀生

ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ *Molorchoepania mizoguchii* (HAYASHI) は伊豆諸島新島・九州・屋久島・奄美大島・徳之島・沖縄本島・石垣島・西表島・与那国島からすでに記録されているが、宮古島における報告は聞かない。

筆者は1975年春、同島を訪れた際に枯づるのピーティングにて本種を採集しているのを報告しておく。

1♂, 12.Ⅱ.1975, 宮古島友利, 齋藤秀生採集

藤田宏保管

なお、この個体は4.5mm とかなり小型のものであった。

(☎154 世田谷区弦巻4-2-17 くるみ荘30号)

### 竹富島のカミキリ

矢野 立志

1974年4月16日、八重山群島竹富島に採集に行く機会があり、計13種のカミキリを採集することができた。今まで同島へ訪れたカミキリ屋はほとんどないようで、カミキリの記録は特産亜種になっているアトモンチビをはじめ、ニッポンモモトコバネ (ssp. *iriomotensis*)・ムネモンアカネトラ・モモトコバネ等が知られている程度であった。

#### 1. ヒゲナガヒメカミキリ

*Ceresium longicorne* PIC, 1♂, 3♀♀

#### 2. リュウキュウヒメカミキリ

*Ceresium fuscum shirakii* HAYASHI, 2exs.

#### 3. ニセフトガタヒメカミキリ

*Ceresium pseudounicolor* KUSAMA et KOMIYA, 2exs.

#### 4. インガキゴマフカミキリ

*Mesosa cervinopicta* (FAIRMAIRE), 1♂

#### 5. サキシマウスアヤカミキリ

*Bumetopia japonica ishigaki* HAYASHI, 1♂

#### 6. ヨスジシラホンサビカミキリ

*Apomecyna historio* (FABRICIUS), 6exs.

#### 7. アヤモンチビカミキリ

*Sybra ordinata flavostriata* HAYASHI, 11exs.

#### 8. アトモンチビカミキリ

*Sybra baculina carinatipennis* BREUNING et CHUJO, 8exs.

9. タイワンチビカミキリ  
*Sybra pascoei ishigakii* BREUNING et OHBA-YASHI, 7exs.
10. ハヤシサビカミキリ  
*Ropica hayashii* BREUNING, 6exs.
11. タテスジドウボソカミキリ  
*Pothyne albolineata* MATSUSHITA, 2exs.
12. イシガキノロオビサビカミキリ  
*Pterolophia kaleea* (BATES), 1ex.
13. コゲチャサビカミキリ  
*Mimectatina meridiana* (MATSUSHITA), 1ex.
- 編集部注) 4. のイシガキゴマフカミキリは *M. yonaguni subkonoi* BREUNING のことである (本誌 R19~23 参照).  
(㊟734 広島市皆実町1-18-40)

三宅島でも採集された

ツماغロアメイロカミキリ

藤田 宏

先に、中村俊彦氏<sup>1)</sup>より伊豆諸島御蔵島におけるツماغロアメイロカミキリ *Pseudiphra apicale* (SCHWARZER) の採集例が発表されたが、筆者は三宅島にて本種を採集しているので報告しておく。

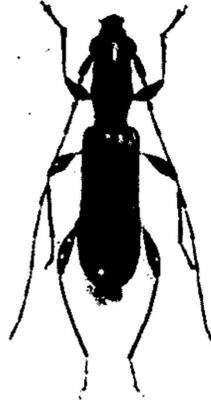
- 1 ♀, 三宅島大路池, 29. VII. 1975, 熊谷優一採集  
1 ♀, 同上, 30. VII. 1975, 藤田宏採集  
2 頭共, 大路池周辺のスイーピングによる。

三宅島で採集された個体は沖縄本島産のものと比較して、特に区別するほどの差異はなく同じ種と思われる。また、台湾産の本種とも比較したが顕著な差は見られなかった。ただ、台湾産の個体においては、上翅基部<sup>2)</sup>の明るい橙色の部分<sup>3)</sup>が、橙色から黒化したものまでさまざまな色彩変異が見られるのに対し、今まで本邦から得られている本種の上翅はすべて橙色の型ばかりで、黒化したもの、あるいは黒化の傾向を示す個体は1頭もなかった<sup>2)</sup>。台湾においてはむしろ黒化型の方が多く<sup>3)</sup>、また、他の日本産の *Pseudiphra*、—*P. bicolor*, *P. obscura*, *P. sp.* (八重山諸島産) 等が同一産地内で相当色彩変異に富むのに対し、本邦産の本種のみが色彩的にまったく安定しているのは面白い。今後、本邦から黒化型のツماغロアメイロが採集されるかどうかは興味深いところである。

なお、採集地<sup>たいりゅう</sup>の大路池付近は、植生の貧弱な三宅島にあって新瀨池付近と同じくシイのよく繁った原生林であるためか、キマダラ・トラフソバネ・ミクラチビなど島内において同地でなければ得にくい種も多く、これらの調査が期待される。

- 1) 中村俊彦(1975): 伊豆御蔵島産の興味あるカミキリ2種, 甲虫ニュース Nos. 29・30, p.7

- 2) 筆者の検した本邦産のツماغロアメイロは御蔵島産2頭, 三宅島産2頭, 沖縄本島産20数頭。  
3) 筆者の調べた範囲では黒35: 橙7であった。  
(㊟110 台東区台東 2-29-6)



編集後記

○今号より ELYTRA は“第2化?”に入ったのですが、いかがでしょうか?.....御意見・御批判をお待ちしております。

不慣れたため、この号の編集には3ヵ月以上もかかってしまい、会員諸兄には大変御迷惑をおかけしました。しかし、後続の「さやばね No.2」および「ELYTRA Vol.4 No.1」の原稿はすでに全部揃っており、あとは編集業務と印刷工程を経るのみですので、6月までには2冊続けて発行し、今までの遅れを一挙にとりもどすことができるのです。(ホントに) (藤田 宏)

ELYTRA Vol. 3, Nos. 1/2

昭和51年5月20日 印刷

昭和51年5月25日 発行

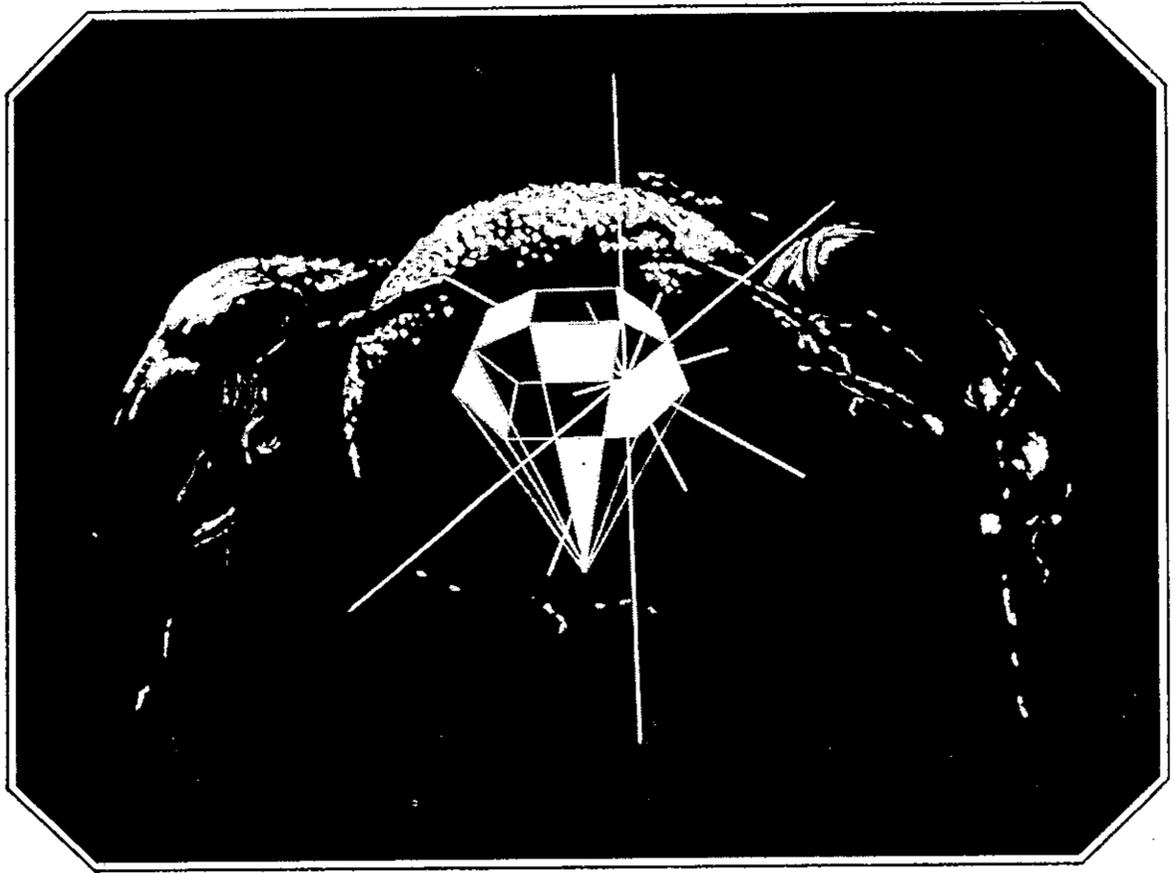
編集者 高 桑 正 敏  
藤 田 宏  
発行者 草 間 慶 一  
発行所 日本鞘翅目学会

Japanese Society  
of Coleopterology

東京都台東区東上野4-26-8  
福田惣一方 (㊟ 110)

c/o, FUKUDA, 4-26-8,  
Higashi-Ueno, Taitō-ku,  
Tōkyō-city, Japan

印刷 (株)大和印刷



# 真珠より美しく ダイヤより価値がある 大切な標本を永久に守る 《ドイツ型標本箱》

自然はますます大切なものとなってきました。この不思議な世界を解明する貴重な手掛りとなる昆虫標本は、価値あるものとして永久に保存したいものです。

そんな願いをこめて、タツミ製作所では、昆虫標本の保存に最適なドイツ型標本箱をお届けします。

## ＊すばらしい特長

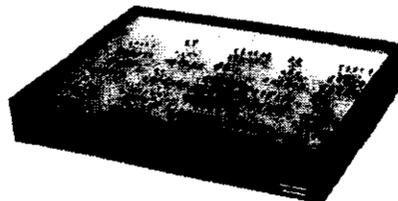
- くるいのこない良質な木材を使用
- 湿気や乾燥にも強い独特の構造
- バランスにも変化せず、標本がより美しく見える白色プラスチック底

## ●高級ニス塗装の丈夫で美しい仕上げ

※標本箱のほか、展翅板など昆虫標本作成に必要な器材もあります。昆虫器材カタログ、昆虫関係輸入図書・委託図書リストもあり。

〒113 東京都文京区湯島一丁目二二番五〇三(八一)四五四七  
郵便振替 東京一三三七九

(有)タツミ製作所



大型  
4,500円(送料別)

中型  
4,000円(送料別)

この価格は昭和49年4月現在のものです

原 著

益本仁雄 (MASUMOTO, K.): 台湾産食糞コガネムシ解説〔1〕 (A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa [1]) .....	1
市川敏之・今西 修 (ICHIKAWA, T. & IMANISHI, O.): 日本産ネプトクワガタの4新亜種 (Some New Subspecies of the <i>Aegus laevicollis</i> SAUNDERS from Japan (Coleoptera, Lucanidae)) .....	9
高桑正敏 (TAKAKUWA, M.): 八重山諸島のハナノミ族リスト (List of the Tribe Mordellini from Yaeyama Islands (Japan)) .....	15
草間慶一・入江平吉 (KUSAMA, K. & IRIE, H.): 南西諸島における <i>Mesosa</i> 属の2新種その ほかについて (Notes on the Longicorn Genus <i>Mesosa</i> <Two new Species and Others from Nansei Islands of Japan>) .....	19
市川 敏之: 伊豆諸島三宅島にヒラタクワガタ産す .....	24
石田 正明: 北海道・利尻島のマグソコガネ2種 .....	24
小幡 幸正: セマルオオマグソコガネ対馬の記録 .....	24
藤田 宏: ヤクルリセンチコガネ大川林道に多産 .....	24
長尾 悟: 四国のムツコブスジコガネの記録 .....	25
佐々治寛之: オオダイセマダラコガネ福井県冠山に産す .....	25
長尾 悟: ナガヒラタムシ属2種の分布記録 .....	25
高桑 正敏: 伊豆諸島におけるモンハナノミの採集例 .....	26
秋山 黄洋: ヤエヤマムナビロタマムシ与那国島の記録 .....	26
藤田 宏: 天草諸島下島のタマムシ3種 .....	26
藤田 宏: オキナワナカボソタマムシの初見記録 .....	26
安井 正: 札幌におけるシリグロナカボソタマムシの記録 .....	27
藤田 宏: オオウグイスナガタマムシの東限記録 .....	27
鈴木 亘: 小笠原父島におけるアカアシハナコメツキの採集例 .....	27
酒井 案理: 沖縄本島でイリエシラホシサビカミキリを採集 .....	27
秋葉 孝雄: ニイタカハナカミキリの食樹について .....	28
内野 晃: 3月下旬・トカラ列島宝島のカミキリ .....	28
矢野 立志: 西表島初記録のカミキリ4種 .....	28
川田 一之: 福島県檜枝岐でホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集 .....	29
藤田 宏: トカラ列島諏訪瀬島・悪石島のカミキリについて .....	29
鎌田 保生: 徳島県剣山における興味深いカミキリ2種 .....	30
神尾 俊夫: 三宅島でセンノカミキリを採集 .....	30
鈴木 恭一: ケヤキの樹幹に集まるオニホソコバネカミキリ .....	30
斎藤 秀生: 宮古島でツヤケンヒゲナガコバネカミキリを採集 .....	31
矢野 立志: 竹富島のカミキリ .....	31
藤田 宏: 三宅島でも採集されたツマグロアメイロカミキリ .....	32

編集後記 .....	32
------------	----